

平成 29 年度 現代社会学部

自己点検評価報告書

－教育研究活動の実績－

1. 概要 (尾畑納子、大谷孝行)
2. 概況 (佐藤悦夫)
3. 教養教育 (大西一成、後藤智)
4. 語学教育 (B. パブリー、湯麗敏、高橋哲郎、秦野るり子)
5. 専門教育 (佐藤悦夫、上坂博亨、高橋哲郎)
6. 留学生教育 (湯麗敏)
7. 教育改善・FD 活動 (川本聖一)
8. 学生生活・生活支援 (佐藤綾子)
9. キャリア支援 (上坂博亨) 公務員 (後藤智、伊藤葵)
10. 国際交流 (才田春夫)
11. 地域交流・地域貢献 (大西一成)
12. 入試対策 (助重雄久)
13. 広報活動 (秦野るり子、高尾哲康、B.パブリー)
14. 研究活動 (高橋ゆかり)
15. 後援会・保護者対応 (大谷孝行、尾畑納子)
16. 文部科学省平成 29 年度認定事業「地(知)の拠点大学」 (長尾治明)
17. 富山国際大学アクションプラン (2014—2017) 総括 (尾畑納子、高橋哲郎)

平成 30 年 3 月

富山国際大学 現代社会学部

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 学部教育目標の達成

富山国際大学は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。平成 20 年度より発足した現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ 常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことである。

地域のグローバル化に対応できる人材の育成に貢献するため、観光専攻、環境デザイン専攻、経営情報専攻の 3 専攻を設置している。それぞれの専門教育を通して、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指して教育研究活動を実施している。

また、平成 26 年度より 4 か年計画で富山国際大学アクションプラン（アクションプラン 2014-2017）を策定し、一層の教育の充実に努めている。しかしながら、18 歳人口の減少など、学部を取り巻く環境は厳しく、平成 27 年～平成 30 年度入学生までの定員充足率は 92.7%（120 名定員）であることから昨年度に比べ、5%上昇した。特に平成 30 年度入試において、諸活動入試、新専攻への期待などから入学者がようやく定員を上回る結果となった。しかし、4 学年総数としての定員を充足していないことから、次年度以降も定員確保のための対策が急務である。

平成 27 年度末に策定した、現代社会学部将来計画の英語教員養成、国際大学連携協定などの検討を行い、グローバル人材育成の強化や副専攻プログラムの推進、国際教養と英語力に特化した新専攻の開設準備を行った。

(2) 分野別特色

a. 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、キャリア・実務科目、教養演習科目を開講している。昨年度に引き続き自校教育についても実施し、学生たちの大学に対するブランディング意識を高めることに努めた。教養ゼミでは、初年次教育の徹底、e-システムの活用による SPI 教育にも力を注居た。また、アカデミックアドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生とゼミ運営について情報交換を行っている。

b. 語学教育

国際人としての能力の向上を目指すため、能力別クラス編成による「基礎英語」の必修化、Toeic による英語力の向上、東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」など副専攻プログラムにも対応できるような語学力の向上をめざし、留学などにも対応できるようカリキュラムを整備した。

c. 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報の専攻ごとの専攻科目、さらに、他専攻の科目を学ぶことによって幅広い知識を身に付ける。また、専攻ごとの「実習」を必修化して地域課題解決能力を育成するため、地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。専門教育の総まとめである卒業研究論文の作成では、「卒業論文要旨集第 2 巻」を発刊した。

d. 留学生教育

平成 29 年度は学部留学生、交換留学生、外国人研究生、合計 116 名が在学している。日本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験で N 1 合格を目指しているが、達成率が極めて低く検討が必要である。異文化体験授業外では、日本の地域社会と触れ合い体験活動を約 11 回実施した。

e.教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。後期には各教員間での互見授業を実施した。FD研修会を学内外含め 3 回開催、全教員がいずれかに参加し、自らの授業改善に取り組むヒントを得た。今後の課題は、授業アンケートの web 化に伴う回答率の改善にもつなげていきたい。また、カリキュラム体系の見直しなども今後の課題である。

f.学生活動・生活支援

学生主体の大学づくりに向けた取り組みを推進し、賑わいのあるキャンパス作りを学生と教職員との協働で実施している。とりわけ食堂の改善、ネット環境の整備などが課題である。学生生活アンケートの結果では昨年と大きな変化はなかったが、学生満足度の高い持続的な環境作りが拾であることから、今年度より学生生活支援チームを立ち上げ、支援を要する学生への配慮等情報の共有化を行った。

g.キャリア支援

キャリア支援体制として、初年次より実施している。昨年度に比べ留学生の国内就職率は低かったが、今後希望者への対応を行う。公務員・金融・国際関係企業希望者に対する対策プロジェクトを立ち上げた。平成 29 年度の就職率は 100% (92 名) を達成した。また、公務員には一般行政職 2 名、警察・消防・自衛官では 4 名が合格し、計 6 名が採用された。

h.国際交流

留学生への学習・生活指導、海外協定校との連携による海外研修・留学プログラムを、国際交流センター委員が担当職員と協力し実施している。4 年または 2 年間学ぶ留学生の在籍者数は 49 名である。1 年次生からの入学者が減少傾向にあり、2+2 の編入生が増加傾向にある。県内出身学生の多い本学にとって国際大学にふさわしい国際的な交流を行うために適正数の外国人入学者を確保していくことが必要である。

i.地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座により、地域貢献を行っている。今後の課題は集客力の向上と新たなプログラムの開発があげられる。また、教員の研究成果や専門性による地域での貢献活動（出講・審議会委員・マスコミ出演等）や学生によるのコンペへの参加、地域行事などへのボランティア活動などの地域貢献活動へ参加する学生が増えた。

j.入試対策

平成 30 年度入試の結果、編入学 3 名を含めて総計 130 名の入学者が確定し 8 年ぶりに入学定員を上回った。入試種別、高校別入学者数を分析し、引き続き平成 31 年度入試に向けた定員確保を最重要課題として対策を講じるよう体制をとることが必要である。

k.HP・広報活動

大学からの積極的な広報活動として、ホームページでの掲載をリアルタイムで行うように努めた。結果、アクセス件数等は伸びていることが分かった。また活字での広報として、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関

に取材依頼した。

1. 研究活動

教員の研究活動は、学会発表、論文発表の件数により評価した。紀要論文では多くの教員が執筆したが、査読論文の件数は十分とは言えない。また、論文の投稿に関して、研究倫理の研修を徹底した。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。科研費採択では研究代表者の採択はゼロであり、今後は一層の研究環境の整備が必要である。

m. 後援会・保護者対応

後援会理事会・後援会総会、保護者懇談会（2回）を開催した。後援会総会や保護者懇談会に出席される保護者の方を増やし、本学への関心・理解を強めたい。

2. 課題

（1）入学定員の確保

平成30年度入学者数は編入者を加えて127名となり、8年ぶりに定員を確保することが出来た。しかし、総定員480名に対しては、まだ達していないことから、30年度から発足する新専攻に関する情報発信、新入生の期待に応える教育が重要であり、引き続き平成31年度も入学定員確保への傾向と対策を考え実践していくことが必要である。

（2）一人一人の学生に対する魅力ある教育指導を目指して

入学時学力および勉学意欲に差がある多様な学生に対して、それぞれの学生に意欲を持たせることが出来る、学びの大切さや喜びを持たせるための教育システムの構築が急を要する課題といえる。入学時から卒業時までの学生のポートフォリオの作成と管理、教員による共有化などをまず早急に実施すること。カリキュラムポリシーの実施状況を確認するなど、実施状況の検証が必要である。

（3）グローバル人材育成のための海外体験教育の促進

昨年度に比べて、やや減少傾向が見られることから、さまざまな機会に海外での異文化体験の重要性を学生にアピールすることが必要である。外国人留学生については、日本語の修得の強化策を講じる必要がある。

（4）高い進路（就職）実績の達成

卒業生全員の進路、特に就職希望者の就職は100%を達成したが、第一志望の進路に進める卒業生を増加させる。社会科学系の学部においては公務員受験者・合格者の増大が必要である。講座への受講生が増えるよう検討していくことが重要。さらには教員・学生の地域での活動を通して現代社会学部の魅力を一層発信していくことも推進したい。

（5）資格

資格に関してはアクションプラン（2014-2017）でキャリア形成の一環として、情報スキル、ビジネススキル、各専攻内容を活かした資格などを推進していた。一方で担当者の変更などに伴い、形式的な資格取得から学生の実態にふさわしくまた、四大にふさわしい資格への見直しが行われた。今後は、社会で必要とされる学力とそれに対応する資格取得環境について検討する必要がある。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 学部生の概要

H30/3/31 現在

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
1 年生	現代社会	現代社会	108	67	41	92	16	59	33	8	8
	休学		2	1	1						
	合 計		108	67	41	92	16	59	33	8	8
	休学		2	1	1	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
2 年生	現代社会	現代社会	93	59	34	72	21	49	23	10	11
	休学		1	1							
	合 計		93	59	34	72	21	49	23	10	11
	休学		1	1	0	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
3 年生	現代社会	現代社会	122	85	37	100	22	72	28	13	9
	休学		1		1						
	合 計		122	85	37	100	22	72	28	13	9
	休学		1	0	1	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
4 年生	現代社会	現代社会	114	77	37	85	29	65	20	12	17
	休学		2	1	1						
	合 計		114	77	37	85	29	65	20	12	17
	休学		2	1	1	0	0	0	0	0	0

	学部	学科	総数	男女別数		県内外別数		男女県内外別数			
				男	女	県内	県外	男県内	女県内	男県外	女県外
全学年	現代社会	現代社会	437	288	149	349	88	245	104	43	45
	休学		6	3	3	0	0	0	0	0	0
	合 計		437	288	149	349	88	245	104	43	45
	休学		6	3	3	0	0	0	0	0	0

※3年次以降の学生数には、3年次編入生（国内、2+2）含む

※表内人数には交換留学生を含まない。

※合計には、留年生、休学者数を含む

2) 県外学生の出身地（入学者）

各年次 5 月 1 日時点での県外、県内の入学者数を示す。

平成 29 年度入学者（1 学年）

学部	性別	富山	京都	兵庫	石川	岐阜	福井	北海道	宮城	愛媛	中国	韓国	ネパール	認定試験	計
現代社会	男	55	0	1	1	1	0	1	1	1	3	0	1	2	67
	女	30	1	1	0	0	0	2	0	1	2	3	0	1	41
	計	85	1	2	1	1	0	3	1	2	5	3	1	3	108

※第一学院高等学校および星槎国際高等学校は、通学した学校の所在地ではなく、調査書に書いてある所管の県にて計上。

平成 28 年度入学者（2 学年）

学部	性別	富山	京都	長崎	石川	新潟	秋田	大分	佐賀	北海道	宮崎	山形	中国	韓国	認定試験	計
現代社会	男	49	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	4	0	0	59
	女	23	0	2	2	0	1	1	0	0	3	1	1	1	0	35
	計	72	1	3	2	0	2	1	1	1	4	1	5	1	0	94

平成 27 年度入学者（3 学年）

学部	性別	富山	愛知	鹿児島	岐阜	京都	山梨	長崎	石川	茨城	新潟	中国	韓国	認定試験	計
現代社会	男	71	1	1	1	2	1	0	0	0	0	3	0	2	82
	女	28	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	1	0	34
	計	99	1	1	1	2	1	1	0	0	0	7	1	2	116

平成 26 年度入学者（4 学年）

学部	性別	富山	秋田	山形	長野	福井	石川	新潟	千葉	兵庫	長崎	中国	その他(認定)				計
現代社会	男	64	2	0	2	1	0	0	1	0	0	7	2				79
	女	19	0	0	0	0	0	2	0	1	1	7	1				31
	計	83	2	0	2	1	0	2	1	1	1	14	3	0	0	0	110

3) 海外学生の出身地（平成 30 年 3 月 31 日現在）

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	5	5	16	18	44
韓国	3		1		4
ネパール	1				1
計	9	5	17	18	49

(2) 教職員

1) 教員組織（平成 29 年 5 月 1 日現在）

区 分	人 数	内 訳
現代社会学部専任教員	20名	教授14 准教授4 講師2
現代社会学部客員教授	4名	
現代社会学部客員准教授	1名	
学園内兼任・兼任講師	4名	子ども育成学部4
学園外兼任講師	15名	
計	44名	

2) 事務職員（平成 29 年 5 月 1 日現在、東黒牧キャンパス）

区 分	人 数	内 訳
専任事務職員	21名	部長1 参事1 課長4 係長3 主査5 主事3 主事補2 運転手1 コーディネーター1
契約職員	8名	職員8
計	29名	

3. 教養教育（教養授業、教養ゼミ、教育指導）

1. 実績・現状

(1) 教養授業

- 1) 教養科目として、①「社会生活基礎科目」7科目、②「社会理解基礎科目」7科目、③「情報化対応科目」2科目、④「外国語科目」18科目、⑤「日本語科目」10科目、⑥「キャリア・実務科目」9科目、⑦「教養演習科目」4科目を開講している。一昨年度から「国際関係に関する授業の充実」を図るために国際的な話題を取り上げ英語で行う授業なども追加し、さらに、昨年度、①、②、④、⑥について開講科目を増やすなど、カリキュラム内容の充実に努めてきている。
- 2) 学生の授業評価について言えば、アンケートにおける「総合評価」ポイントは、5点満点中、ほとんどが4点台であり、4点台後半となっている科目も数多く観られる。

(2) 教養ゼミ

- 1) 昨年同様、合同の教養演習Ⅰ（1年ゼミ）において、前期に「eポートフォリオ・図書館利用法」、「健康教育・大学生活のためのツールブック利用法」、「言語・非言語 Web テスト」を、後期に「北日本新聞連携講座」、「SPI 基礎講座」を実施。前期の「言語・非言語 Web テスト」の結果は、本人およびゼミ担当教員に伝えられ、それ以降の本人学習や教員による指導の参考とされた。
- 2) 教養演習Ⅱ（2年ゼミ）において、30分程度の時間を充てて15回にわたり SPI の問題演習を実施。さらに、SPI については、合同教養演習において就職試験プレテストとして年4回（6月7日、7月5日、11月8日、1月17日）、2年生全員による模擬試験を行った。
- 3) 10月の大学祭期間中に、教養演習Ⅰと教養演習Ⅱのゼミ活動内容を示す展示を、ゼミごとに行った。

(3) 教育指導

- 1) 1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡会議を月1回程度実施し、ゼミ生の様子、ゼミ運営の方法等について、定期的な情報交換を行うとともに、個別的な配慮や指導を要する学生についての指導体制を検討した。
- 2) ゼミ担当教員は、ゼミ生の授業への出欠状況を把握し、授業やサークル活動面での情報を関係各所から得た上で、必要な学生にはアドバイスや指導を行っている。
- 3) 保護者との連携のために、個別保護者懇談会（年2回）を実施すると共に、個別対応が必要な学生の保護者との面談等も行った。保護者への成績表送付の際に、必要な場合には、ゼミ担当教員によるコメントを付して、懇談会出席の呼びかけ等を行っている。 * なお、本年度退学者は、1年生1名（退学率0.93%）、2年生3名（退学率3.09%）である。（2018年3月31日現在）。

2. 今後の課題（一部、2016年度課題とされ、2017年度改善されたものを含む。）

(1) 教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえ、継続的な授業改善に取り組むこと。
- 2) ディプロマ・ポリシーや他の授業科目との関連を意識した授業内容の工夫。

【2017年度に改善できた点】

前期途中から、TUINS eラーニングのシステムが導入され、とくに後期以降、学生の基礎的な力を伸ばすために用いる取組みが始まっている。

(2) 教養ゼミ

- 1) 学生の文章作成能力、プレゼンテーション能力の一層の涵養が求められる。
- 2) 問題等を抱えた学生や奨学金対象者で GPA の低い学生に対するアカデミック・アドバイザー連絡協議会と授業担当者、保健管理センターとの連携強化が求められる。
- 3) 「ツールブック」のさらなる利活用に向けた検討。
- 4) 「より良いゼミ運営」を目指すための教員間における情報交換の拡充に向けた取り組みが求められる。

(3) 教育指導

- 1) 学生に長期留学を促す方法、あるいは留学前・留学中の学生に対する指導方法の検討。
- 2) 上記、保護者との定期的な懇談会はもとより、必要であれば適宜保護者との懇談を行う場を設けることがより一層求められる。

4. 語学教育

4-1. 英語教育

1. 実績・現状

(1) 平成 29 年度の基礎英語 I または基礎英語 II 1 年（前・後）・必修科目 は 6 クラスで行い、専任教員 2 名（秦野教授、パブリー講師）と非常勤講師 3 名が担当した。英語で行うゼミ（教養演習 I I 英語クラス）を 専任教員（パブリー講師）が担当した。

実践英語 I 1 年（前）（後）・選択必修科目、また、外国語特講（英語） 2 年（前）（後）・選択科目 を 非常勤講師（2 名）が担当した。観光英語 3 年（前）・選択科目 専任教員（パブリー講師）が担当した。ビジネス英語 選択科目 3 年（前）は、専任教員（秦野教授）が担当し、Oral Communication 選択科目・3 年（前）は、非常勤講師 1 名が担当した。

(2) 基礎英語 I または基礎英語 II に関しては、プレースメントテストを行い、基礎英語クラス分けをした。能力（テストの点数）により、現代社会学部で能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果として、学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。

(3) 学生が英語を母語としている人と触れ合い、英語のみで自由にいろんなトピックについての話ができるイングリッシュ・カフェ（English Café）という施設をリニューアルし、再開した。Café の設備、スペースを拡大し、担当者を 2 名から 3 名まで増やした。2016 年度と同様に English Café の担当者を管理し、英語に興味がある学生と力が高い学生にふさわしい、より面白い学習できる英語の環境を作り、English Cafe の 2017 年度の訪問回数が 727 回となり、（2016 年度約 550、2015 年度約 350）。英語に興味を持っている学生を中心に、D.I.Y., Iron Chef、クリスマス会などのイベントを行った。

2. 課題

英語プレースメントテストの内容を改善し、英語 I・英語 II のより細かいクラス分けをする。学部英語教育、留学プログラムと TOEIC, TOEFL などの英語検定により強く関連させる。イングリッシュ・カフェ（English Café）利用者の人数を増やす。

4. 語学教育

4-2. 中国語教育

【中国語Ⅰ・Ⅱ】(担当：湯 麗敏・銭 輝)

1. 実績・現状

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数(人)	割合(%)	備考
履修学生数	70	100%	
期末試験受験者数	70	100%	
合格者数	69	98%	(内7名が再テストで合格)
不合格者数	1	2%	

(2) 成績評価基準

- ・ シラバスに記述した方針(受講態度 20%、課題 30%、期末テスト 50%)で成績評価(素点)を実施。

(3) 授業の成果と問題

- ・ 殆どの受講生の受講態度がよかった。人数が多いにもかかわらず、授業中、無駄話がなかったし、居眠りもしなかった。中国語の授業は楽しかったという声があった。授業に出席率が例年より良かったし、勉強意欲も例年の学生より高かった。教員と学生とのコミュニケーションもよく取れる状態だった。授業アンケート分析によると履修者の80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えがあった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つようになったということが分かった。
- ・ 授業中、言葉の勉強だけではなく、中国文化、事情も取り入れるのを心がけた結果、学生のそれらを理解と認識度も同時に高められた。中国文化の導入があったから、いっそう中国語の勉強に興味を持たせることができた。
- ・ 授業は発音・声調、朗読、短文のつくり、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、グループワークもよく取り入れられて、学生に作業時間を与えるのを心がけた。

2. 課題

(1) 課題

- ・ 単位だけがほしい学生の勉強意欲が低い、遅刻や無断欠席などの現象もあった。
- ・ プリント、宿題を時間通りに提出しない学生もしばしば現れた。時々、授業中少数の学生のために、補習や復習を行うために、全体の授業の進捗に対しては、支障が出ることもあった。

(2) 解決方策

- ・ 興味を持ってもらうだけではなくクラス全体の学生の勉強意欲、主体的に学ぶことを引き出すことができるような授業の方法を工夫しなければならないこと。(例えばまず楽しい、生き生きとした授業雰囲気を作ったり、学生の能動性が目いっぱい生かせたりすることなどを工夫する。)
- ・ 中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならないこと。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。
- ・ チューター制度をもっと有効的に活用し、中国語の履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

【外国語特講中国語】(担当者 湯麗敏)

1. 実績・現状

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	7	100%	
期末試験受験者数	7	100%	
合格者数	7	100%	(受験者全員合格)
不合格者数	0	0%	

(2) 成績評価基準

- ・ シラバスに記述した方針(課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%、などで総合的に評価する。

(3) 到達目標

- ①：中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- ②：中国人と日常的な会話ができる。
- ③：辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳・翻訳もできるようにと目指すこと。

(4) 授業の成果と問題

- ・ 地元の観光地である立山についての観光事情と自然環境の勉強も取り入れた。
- ・ 授業を通して、到達目標の①は、クリアできたが、②に関しては、もう少し距離があるようだが、また努力が必要である。
- ・ 辞書を参考しながら翻訳は少しずつ進歩していたが、通訳はまだまだな状態である。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導が行われた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

2. 課題と解決方策

- ・ 昨年と同じように教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みに工夫したいと思う。
- ・ 興味を持ってもらうだけでなく、学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないと考えている。
- ・ 大学のチューター制度をもっと有効的に活用し、学習者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。
- ・ 観光現場での言語実践を可能であれば実施したいと思う。

【観光中国語】(担当者 湯麗敏)

1. 実績・現状

(1) 履修者数および成績評価結果

項目	人数 (人)	割合 (%)	備考
履修学生数	26	100%	
期末試験受験者数	24	92%	
合格者数	24	100%	
不合格者数	0	0%	

(2) 成績評価基準

- ・ シラバスに記述した方針(課題 30%、期末テスト 50%、授業態度 20%などで総合的に評価する。

(3) 到達目標

- ①：中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- ②：中国人と日常的な会話ができる。
- ③：辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

(4) 授業の成果と問題

- ・ 到達目標の①に関しては、殆どクリアできたが、②に関しては、達成するまで少し距離があるようだが、また努力が必要である。③に関しては、基礎的なもの、簡単な程度ぐらいいは問題がないけれども、やや難易度の高いものに対しては、無理がある。
- ・ 言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・ 受講生の中に中国人留学生が 5 名いるので、授業中日本人学生と一緒に交流したり、会話練習をしたりして、チューターの役割もうまく果たされた。
- ・ 学生が参加型の授業なので、グループワークが良く行われた。

2. 課題と解決方策

- ・ 教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みたいと思う。
- ・ 興味を持ってもらうだけでなく、学習意欲を高め、勉強成果がもっとあげられるように工夫をしなければならないこと。
- ・ チューター制度をもっと有効的に活用し、履修者との交流や会話練習などを授業の一環として更に強化したい。

4. 語学教育

4-3. 韓国語教育

1. 実績・現状

韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。平成 29 年度「韓国語Ⅰ」(履修登録者 13 名。単位取得者 12 名)では、ハングルと発音の習得、続いて会話練習を織り込みながら初級文法を学習した。「韓国語Ⅱ」(履修登録者 12 名。単位取得者 12 名)では、「韓国語Ⅰ」で学習した内容を復習した後、過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 9 割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は、これまで比べ多かった。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校への留学を推奨している。平成 29 年度は韓国語履修者中、「異文化研修(韓国)」に 5 名参加した。

平成 28 年度韓国語を履修した学生の中から、2 名の学生が韓国留学(9 月～12 月)した。

2. 課題

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、一週間に 1 回程度復習用の学習プリントを配布、翌週の授業で回収し点検している。

また、平成 29 年度は韓国の協定校、大邱大学及び大邱韓医大学からの交換留学生 3 名と学部 1 年生の韓国人学生 3 名、計 6 名が韓国Ⅰ、韓国語Ⅱの授業にチューターとして参加した。発音指導、会話練習、最近の韓国若者事情の情報提供など授業進行と理解促進に大きな助けとなった。

アクティブ・ラーニング(グループワーク)の導入を継続的に進めている。小グループ内での発音練習、会話練習を多く取り入れた。平成 30 年度はグループ内でのコミュニケーションを活発化させる新たな方策を種々検討実施したい。

4. 語学教育

4－4. フランス語教育

1. 実績・現状

- ・平成28年度より開講し、平成29年度は2年目の授業科目である。
- ・受講生5名。
- ・学生の授業の出席状況は皆勤だった。
- ・毎回授業開始時に小テストを実施し、前回授業内容の理解度を確認した。
- ・授業では、テキスト以外にシャンソンを聴く、フランス国内各地のDVDの視聴、フランス製品の説明書きを読むなどして、授業が単調にならないような工夫を図った。

2. 課題

- ・1年間の授業が終わった後でも、特に発音を難しいと感じている学生が多いので、少人数の特長を活かして、できるだけ発音の機会を多く設定する。
- ・授業で学習した内容を活用できる場面を多く示してあげること。
- ・フランス事情を多面的に紹介し、特に芸術や文化面のフランス文化の魅力を発信すること。

4. 語学教育

4-5. ロシア語教育

1. 実績・現状

- ・ ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。
- ・ ロシア語の基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア文化について学ぶことができた。
- ・ 2016 年からスタートした外国語特講(ロシア語)をし続けたが、履修者が少なかった。
- ・ 2017 年に現代社会学部の学生(1 名)がロシアに協定大学に長期留学をした。

項目	人数	備考
ロシア語 I 前期	12 名	
ロシア語 II 後期	12 名	
外国語特講 (ロシア語) I 前期	3 名	履修者にフランス人の交換留学生がいた。
外国語特講 (ロシア語) II 後期	2 名	
合格者数	29 名	
不合格者数	2 名	

2. 課題

ロシア語を勉強し続けようとした 2 年生・3 年生が少なすぎ、2 年生がロシア語を勉強し続けるように対策を考える。

5. 専門教育

5-1 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

平成 29 年度の観光専攻の 1、2、3、4 年対象の講義科目（観光専攻専攻科目）は、22 科目開講され、専任教員 6 名と非常勤講師 3 名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法として AL 技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価関する項目では、4 点以上（5 点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

<目的>

2017 年度の観光実習は、具体的な地域をフィールド（大山地域：佐藤勝秀、細入地域：高橋、八尾地域：佐藤悦夫、富山空港周辺地域：助重）に仲間と協力して、①地域および地域の観光事業の現状を調査しまとめること、②今後の観光まちづくりのあり方を考えることを目的に行いました。

<到達目標>

到達目標は次の 2 点でした。

- ①地域の観光まちづくりの現状と問題点を調べまとめる。
- ②現状を踏まえて今後の観光まちづくりのあり方を考える。

<実習内容>

上記目的を達成するために次のことを実施した。

- ①班編成ならびに実習の目的等の説明
- ②各地域の現状と問題点の整理と課題の洗い出し。
- ③各地域の観光地の魅力発見とその活用に関する検討。
- ④各地域における観光地づくりリーダー等へのヒアリング調査ならびに調査結果の整理、要点のまとめ
- ⑤各地域において、観光客へのアンケート調査
- ⑥報告書の作成
- ⑦最終報告会

<成果>

- ①八尾地域を調査した「1 班 八尾の観光～糸で繋ぐ絆から」、大山地域を調査した「2 班 大山地区提案報告」、富山空港周辺を調査した「3 班 富山空港周辺地域提案報告」、細入地域を調査した「4 班 猪谷地区の課題と提案」の提案を行った。
- ②観光実習に参加した学生は、それぞれの地域でヒアリング調査、アンケート調査を行い、学生独自の発想で具体的な提案を行った。

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

<卒業論文タイトル>

1. フードツーリズムを通じた富山県の活性化
ー富山県におけるブラックラーメンを事例としてー
2. 中学生からみた「立山黒部ジオパーク」ー現状と認知度上昇に向けた課題ー
3. いたち川の観光利用のあり方に関する研究
4. 万葉のふるさとにおける歌碑の現状と万葉歌碑巡りのあり方
5. 長崎からみた富山、富山からみた長崎ー高校生がもつ遠隔地の地域イメージー
6. 当地キャラクターが与える地域への効果と観光利用のあり方ー県内事例を踏まえてー
7. 地域振興イベントとしてのスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドー27年間の成果と課題ー
8. 小規模スキー場の存続に向けた取り組みと課題ーたいらスキー場を中心にー
9. 観光誘客に向けた酒蔵の取り組みとその課題
10. 立山黒部アルペンルートにおけるインバウンドの状況と課題
11. 観光地経営の必要性とあり方に関する考察ー観光活性化ファンドに着目してー
12. 伝統芸能の保存と活用に関する研究ー氷見獅子舞を事例としてー
13. 地方中小都市の中心商店街の現状とあり方ー小矢部市を対象としてー
14. 訪日外国人が日本で運転する際の問題についての研究
15. 富山における柿山についての調査ー日の出屋製菓産業を事例にー
16. 観光資源としての魚津蜃気楼に関する研究ー長野県阿智村との比較研究ー
17. 増山城跡の観光資源の現状と今後の在り方についての考察
18. 観光としての聖地巡礼ー沼津市を事例にー
19. 砺波平野散村景観の現状と保全のあり方に関する研究
20. 城端曳山祭来訪者の観光行動からみた富山県西部における観光誘客の課題
21. YouTubeによる観光PR動画の現状と課題ー新潟県を事例としてー
22. 富山のロケツーリズムの在り方
23. タイ山岳少数民族ムラブリに寄り添う資源活用に関する研究ー編みカバンの問題を事例にー

専門演習Ⅰは4名の教員、専門演習Ⅱは5名の教員で担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：佐藤（悦）教授9名、助重教授8名、湯教授8名、佐藤（勝）准教授11名。

専門演習Ⅱ：佐藤（悦）教授4名、助重教授6名、高橋（光）教授6名、湯教授3名、佐藤（勝）准教授5名。

4年次23名は卒業論文を書き上げ、2018年2月に卒業論文発表会を行った。

2. 課題

①観光専攻の専攻科目

観光専攻の専攻科目の授業アンケート結果は、比較的高い評価点であるが、講義内容、教育手法に関しては、引き続き専攻内でも検討する必要がある。2018年度は、新任教員も加わるので授業の内容、教授法に関して情報を共有する。

②観光実習

観光実習は、グループワークが必要な授業である。学生の中には、グループワークが不得意な学生もいた。そのような学生の対応を今後検討する必要がある。2018年度は、ゼミ単位でグループを作ることを検討している。

③専門演習、卒業論文指導

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4年次の卒業研究につなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある。

また、観光専攻では、卒論書くにあたってフィールドワークを行うことを義務化した。

5. 専門教育

5-2 環境デザイン専攻

1. 実績と現状

(1) 新たな取組み

平成 29 年度は以下の新しい取り組みを行った。

- ① NP0 法人エコテクノロジー研究会との共催により、全国レベルの研究集会として 12 月に「エコテクノロジー・シンポジウム 2017」を本学東黒牧にて開催した。参加総数 71 名、基調講演 2 件、パネルディスカッション 4 件、一般発表（ポスター）23 件の研究報告が行われた。
- ② 環境デザイン実習において 28 年度に引き続き前期実施としたことで自由度が高くなり、昨年度までは専攻全体で統一テーマによる実習を行っていたものを一新して、ゼミを中心としたグループワークとする事で卒業研究のテーマにより近い分野での知識と技能の習得促進を図った。
- ③ 28 年度に引き続き、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」において富山国際大学は「地（知）の拠点大学」に認定された事を受け、地域連携を実践する教育内容を充実した（環境デザイン実習、卒業研究、環境政策論など）

(2) 環境デザイン実習

環境デザイン実習は 28 年度に引き続き前期のカリキュラムとして、雪が無く天候に恵まれた夏季実習として実施した。この事により好天期間が長めに自由度高く確保できることから、実習グループを見直してゼミ中心とし、実習テーマもグループごとに自由に設定できることとした。これによって、従来は 4 年からスタートしていた卒業研究に関連する知識と技能習得を 3 年次に開始できることとなり、各自の卒研テーマに近い分野での実習が可能となった。臨海実習についてはオプションコースの位置づけにして、実習内容の関係から定員を 20 名に限定して自由参加方式とし、7 月に 2 日間の集中にて実施した。

① グループごとの調査内容

- 上坂 G 八尾町桐谷にて解体した空き家の残材を、薪として再利用する手法で、新たな薪ビジネス構築の可能性を調査する。
- 尾畑 G 立山カルデラや大山地区本宮の砂防堰堤などを訪れて、災害の歴史を調査するとともに地域活性化のための提案を行う。
- 大谷 G 大学近郊に在住するお年寄りに「聞き書き」を実施し、昔の人々のライフスタイルを知ることを通じて、現在のライフスタイルを考える機会とする。
- 川本 G 八尾町桐谷にて、限界集落の空き家解体プロセスを調査し、地域にとって最適な解体手法と解体残渣の成分分析を実施する。
- 才田 G ムラブリを対象とした栄養と健康に関する調査研究及び食育活動に必要な学びや手法開発などを富山短大食物栄養学科専攻生 2 名と一緒にやる。
- 高橋 G マイクロプラスチックを中心とした海洋漂着ゴミに関して、海岸の砂などを採取して分析しその内訳や由来などを調査する。

② 臨海実習

実習日：2017 年 7 月 14 日（金）-15 日（土）参加学生 16 名、教員 3 名

場所：金沢大学環日本海域環境研究センター臨海実験施設

〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木 ☎0768-74-1151

実習内容：磯採集、海の生物のスケッチ、イカの解剖、乗船実習、ウニの発生の観察

事前オリエンテーション：6月21日（水）4限

（3）専門演習Ⅰと専門演習Ⅱ（卒業研究）

専門演習Ⅰ、Ⅱともに環境デザイン専攻の教員6名全員で学生を担当した。教員別の学生数は以下のとおりである。

専門演習Ⅰ：上坂教授（9名）、尾畑教授（5名）、大谷教授（6名）、川本教授（8名）、才田教授（1名）、高橋准教授（7名）

専門演習Ⅱ：上坂教授（8名）、尾畑教授（7名）、大谷教授（8名）、川本教授（10名）、才田教授（5名）、高橋准教授（5名）

COC+拠点大学としての認定を受けて、環境デザイン実習と同様に卒業研究も「地域指向科目」としての性格を強調した内容とした。具体的には学生が積極的に学外に出向き、学外地域における課題発見とその解決策提案、および関与結果についての研究的側面を追及するべくテーマ選択を行った。その結果、全39件の卒研テーマ中19件（48.7%）を地域課題解決型の卒業研究とすることができた。（昨年度は37.5%）

- ・ 中間発表会（平成27年8月3日（木）13:00～17:00 実施）

- ・ 卒論発表会（平成28年2月8日（木）19:30～15:00 実施）

テーマ39件、要旨集作成（1件A4判1ページ）

氏名	テーマ	地域連携
土肥志愛	宇奈月温泉における熱利用の現状と未利用熱活用の可能性	宇奈月温泉
秋元日南子	黒部市音沢集落における小水力発電の可能性と住民意識	黒部市音沢
阿部宇杏	東日本大震災における災害の実態と復興への課題	
石川雅貴	地域におけるメンタルヘルス学習～「生活の発見会」の富山での活動～	
石坂優里	食品ロスの現状と対策	富山県
市川大智	足湯、癒しとしての適性微生物の観点から	
岩崎翔真	中山間地における空家に関する住民意識と行政対応	富山市
大野絵里奈	ファーストファッション/エシカルファッションから環境社会への可能性	
岡田拓也	富山の環境教育～高校生への聞き書き学習の導入の可能性～	
尾近友樹	八尾町桐谷での小水力発電電力の利用方法に関する研究	八尾町桐谷
金井聡志	富山の住宅会社の商品テーマに関する研究	富山市
川田麗央	物に対する内観の可能性	
北川楓之	スポーツ選手のモチベーション強化～内観を中心に～	
栗山咲樹	災害時の水利用 一家庭洗濯を中心として	

氏名	テーマ	地域連携
小林千師	大学講義室と一般家庭における CO ₂ 濃度と快適な環境に向けての提案	
佐藤廉	若い世代の防災意識の普及	富山県
地家一貴	八尾町桐谷における地域主体の小水力利用への展開	八尾町桐谷
周文韜	大学授業中の二酸化炭素の室内濃度	
上瀧慧	柔道と人間教育～精力善用と自他共栄を中心に～	
杉瀬嵩輝	江戸の暮らしから学ぶ環境配慮型ライフスタイル	
滝澤明日花	子供の遊び場の衛生環境について	
武部遼一	消費者から見る小型電池の回収 現状と課題	
張佳妮	植物を楽しむ暮らし方に関する研究 - 「第 23 回北陸の家づくり」設計コンペ作品の分析-	
中川祥	八尾町桐谷における簡易水道への住民の思いと小水力発電の意義について	八尾町桐谷
長澤龍也	睡眠障害の心理的要因	
橋本遥輝	山間部における太陽光発電の比較	八尾町桐谷
藤谷魁人	富山県における外来生物の現状と対策	富山市
古金賢登	白岩川上流での流量調査と小水力発電の可能性	立山町
水川遥	外来生物とアカミミガメ問題についての大学生の認知	
三原舜明	北陸の住宅屋根材に関する地域特性の研究	北陸
村川慧	漂着ゴミに関する検討	富山市
森野義礼	マイクロプラスチックの波打ち際生息生物（貝）への影響評価	富山市
山崎豊	富山市の砂浜におけるマイクロプラスチックの現状	富山市
山本宗宏	スポーツ競技におけるルーティーンの効果	
四ッ谷翔平	住宅設計における雪対策に関する地域性実態調査	北陸
柳 歆	シックハウス対策に関する日中比較	
王丹	空家を再利用する暮らし方に関する事例研究	富山市
白石直輝	黒部市音沢地区における小水力発電ポテンシャルとエネルギー自給の可能性	黒部市音沢
孫麗霞	中国山東省の農村におけるエネルギー利用状況と再エネ利用の可能性	

（４） 学生による地域連携研究およびボランティア活動

- ・ とやま環境フェアでのボランティア活動（学生延 7 名参加）
- ・ オスカーホーム、NPO きんたろう倶楽部との協働型森づくり活動（環境サークルの学生延 20 名参加）
- ・ 全国植樹祭への参加（ボランティア環境サークル 2 名）

（５） その他

①ゼミ教員による学生指導

- ・ エコ検定合格をめざした全教員による受験講座を実施
平成 29 年度 受験者数：31 名、 合格者数：20 名、 合格率：64.5%
(平成 28 年度 受験者数：17 名、 合格者数：9 名、 合格率：52.9%)

②支援を要する学生への対応

- ・ 卒業が遅れている 1 名の学生への対応 (30 年度 9 月に卒業予定)
- ・ 28 年度の学生 1 名は 9 月に無事卒業した

③グローバル化対応

- ・ ボランティアの外部講師 (タイ語専門家) と海外研修 (タイ) 希望学生を中心とした、タイ語修得の自主活動 (学生 8 名参加)

④公開講座の実施

- (1) 木質バイオマスを活用した地域熱供給に関する公開講座を実施した。

【日時】 平成 30 年 3 月 9 日 (金) 10:00～11:45 頃

【場所】 富山国際大学 東黒牧キャンパス 4 号館 441 教室 (定員 150 名)

【演題】 「地域創生における木質バイオマス利用の意義」

【講師】 三浦秀一氏 (東北芸術工科大学教授)

2. 課題

(1) 環境デザイン専攻の高校向け特色と魅力の明確化

平成 28 年度までに検討した環境デザイン専攻の人材教育方針では、国際ビジネスも視野にいれた実践指向の教育を実行するとした。一方 29 年度には COC+地 (知) の拠点大学として全学的に地域指向の教育体制確立に傾注した。現時点でまだ特色の明確化に関する結論は出ていないが、地域志向・実践志向の教育が定着してきた感がある。30 年度にはさらに議論を重ねて本学の特色を明確にしていくこととする。

(2) 学生の自発的興味を引き出す教育方法の開発

平成 28 年度までは、環境デザイン専攻は部活動強化学生や留学生など極めて多様な学生で構成されており、学習面だけから見ると学力のばらつきが大きいという現状が問題視されていた。根本的には大きな変化はないものの学力レベルが極端に低い学生が減少し、29 年度の 2 年生を中心に学術的興味を示す学生が増加している印象がある。これに伴って教育内容もより高度化し学生の興味を満たす内容へと変化させる必要がある。

(3) 5 年後に向けた中期計画の策定

専攻スタッフ教員 6 名のうち、4 名が 5 年後までに定年を迎える現状から、中期的な視点から教育内容と人材確保の方針化を検討する必要がある。

5. 専門教育

5-3 経営情報専攻

1. 実績・現状

(1) 「経営情報概論」テキストの改訂

平成 27 年度より初学者に経営情報専攻での学びをわかりやすく、またテキストでの予習復習を通してより深く教授することを目的として、本専攻オリジナルテキストを作成している。平成 29 年度も内容を改訂し受講生に配布した。作成にあたっては経営情報専攻所属教員 7 名全員で分担、各教員 2 回講義を担当し専門分野と「経営情報概論」で初学者に教育すべき内容のすり合わせを行った。

初学者にとって、「経営情報」の学習内容は多岐にわたり、全体像がつかみにくいという傾向が見られる。平成 29 年度「経営情報概論」テキストでは、経営情報におけるさまざまな学びを系統建てて概要として示し、経営情報の全体像から各自が特に興味を待った分野へと、今後の更なる専門的学びにむけて自らの方向性を見出す一助となることを目指した。

期末に行った授業アンケートにおいて、「経営情報概論」の総合評価が、平成 29 年度は 3.87 となり、平成 28 年度の 4.03 から 0.16 ポイント低下した。授業アンケート結果を分析すると「内容が難しい」との意見が多かった。平成 30 年度は、わかりやすく学生満足度の高い講義を目指し、それをサポートするテキストを作成する。

(2) 専門演習

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱとも 6 名の教員が担当した。教員別の学生数は下記の通りである。

専門演習Ⅰ：大西教授 10 名、後藤教授 4 名、高橋（哲）教授 11 名、長尾教授 10 名、佐藤（綾）准教授 9 名、伊藤講師 9 名、計 53 名（内、3 年次編入の秋季入学生 2 名が含まれている）の学生がそれぞれの研究室で専攻分野の学びを深めた。このほか、海外協定校（中国、大連海洋大学、韓国、大邱大学）からの交換留学生 3 名（後藤ゼミ 1 名、高橋（哲）ゼミ 2 名）が専門演習Ⅰで 1 年間学んだ。

専門演習Ⅱ：大西教授 8 名、後藤教授 6 名、高橋（哲）教授 11 名、長尾教授 9 名、佐藤（綾）准教授 7 名、伊藤（葵）講師 4 名、合計 45 名（内、平成 28 年度後期 3 年次編入の秋季入学生 3 名が含まれている）が、それぞれの研究室で卒業研究に取り組み、秋季入学生 3 名（平成 30 年 9 月卒業予定）を除く 42 名が卒業論文を提出し学位（社会学士）を取得した。

(3) 経営情報実習

1) 実習概要

これまでに学んだ経営情報に関する専門知識を、企業における実習を通して、より実践的な知識にブラッシュアップすることを目的に行なわれた。併せて、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的とした。対象学年は 3 年で専攻必修科目である。実習先は昨年度に引き続き株式会社まちづくりとやまと株式会社ジャパン・フラワー・コーポレーション（花まつ）の 2 社に加え、新たに（一社）地域・観光マネジメントの計 3 社で実習を行った。実習期間は平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月であった。

2) 実習の方法

4 か月間、毎週木曜午後に学外での実習（「長期インターンシップ」）に取り組む。「(株)まちづくりとやま」、「(株)ジャパン・フラワー・コーポレーション（花まつ）」および「(一社) 地域・観光マネジメント」にて計 51 名受け入れていただき、9 班（5～6 名のグループ）がそれぞれ個別テーマに取り組んだ。

「まちづくりとやま」では①グランドプラザの活用策としてクリスマスツリーの設置し、フィンランドからくる公認サンタクロースへのメッセージを書いてもらう「サンタフェスタ」を企画実施した。②「地場もんや」での実習グループはセールスゲートの認知度アップ策を提案した。また、③富山市中心商店街の情報発信事業「なかもん」やシティウォーカー（マップ）掲載店舗の更新や④市内のデジタルサイネージ広告活用のための PR 策など、まちづくりの課題に取り組んだ。

「花まつ」での実習では、花まつポイントカード新規会員獲得のキャンペーンを 3 グループ実施した。それぞれ実施店舗ごとに独自のキャンペーンを展開し検証した。

（一社）地域・観光マネジメントでは、2 つの課題に取り組んだ。課題①は、富山市まちなかの富山市まちなかの二次交通を活用し、観光客の動線を広げる観光ルートの提案を行った。実習の最後に、留学生モニターツアーを実施した。課題②は、富山市内の特長を活かしたお土産（富山のガラスを使った箸置き）を企画した。ターゲット設定、仕入れ交渉、販売方法、ブランディングなどを学んだ。

1 月 25 日には成果発表会を開催。実習の成果は年々充実してきており、地元新聞社 2 社の取材を受け 1 社は写真入りで取り上げていただいた。

3) 学生の評価

授業アンケートの結果は以下のとおり高い評価であった。

総合評価：4. 39、学生の自己評価：4. 45、目標の到達達成度：a(コミュニケーション力、チームワーク力、課題解決力などを向上させる)4. 50、b(大学で学んだ知識を活用することを学ぶ)4. 26、授業の雰囲気：4. 58、実習場所の環境：4. 48

学生へのアンケート結果から主な意見を抽出すると次の通りである。

①身についた能力という視点から

圧倒的に多かったのがコミュニケーション能力だった。これは、グループ作業を行なうことによってコミュニケーションをとらざるを得ない状況に追い込まれたということだと推察される。これに関連して、共同で作業する能力やチームワークといった能力も多く見られた。プレゼン資料作成能力や企画力という意見もあった。

②その他の意見として

「自分たちでイベントの企画・立案・実行に携わることが出来た」、「経営情報専攻科目で学んだ知識が活かされた」、「マーケティングなど実践することができた」などのコメントが目立った。

（4）卒業研究

専門演習の集大成として 2 回の中間発表を行った後、卒業研究発表会を平成 30 年 2 月 13 日（火）に実施し、45 名が発表した。研究テーマは以下の通りである。

・ます寿司の日常品化～求められた販路拡大とは～

- ・総栄通りで人々が生づく 裏通り文化への期待と可能性～飲み屋街の街づくり～
- ・中国における日系電気機械製造業にみる人材の現地採用と育成に関する研究～現地管理職人材を中心に～
- ・ブランド構築の方法及びブランド価値について～ハーゲンダッツを例にして～
- ・住民の生活を尊重する五箇山における過疎化問題に関する一考察～若年層の雇用と人口流出問題を中心に～
- ・夕張市にみる若年層の人口流出問題に関する一考察 ～栗山・長沼町への人口流出を招いた要因を比較して～
- ・トヨタ自動車企業の中国市場における特異点に関する一考察 ～トヨタ自動車を中心にして、販売戦略を分析する～
- ・アリババ株式会社の生き残り戦略 ～11月11日独身の日の嵐～
- ・トヨタ自動車の現状と今後の課題
- ・インターネット上での「無料(フリー)」を利用したビジネスモデル—その現状と課題—
- ・企業組織の変化と法律の在り方—最近の「企業不祥事」をもとに考える—
- ・「ブラック企業」の実態とそれへの対応策
- ・コーヒー業界の実態と今後の事業展開
- ・コンパクトシティ政策についての一考察
- ・難病患者への就労支援の在り方に関する研究
- ・ハイドロ銀チタンくつ下のマーケティング戦略
- ・ニートの根因に関する探索的研究
- ・デンマークにおける住民参加型地域資源マネジメントの促進と、経済的公平性を重視した風力発電事業に関する研究
- ・労働時間等と過労死、過労自殺との関連に関する研究
- ・スーパーマーケットの現状と今後の方向性に関する研究
- ・グローバル・マーケティングにおける「共通化戦略」と「カスタマイズ戦略」
- ・卸売業はなぜ、なくならないのか
- ・FinTechのセキュリティと今後の普及
- ・伝統工芸の継承者不足について～観光立国との融合に向けて～
- ・射水市の総合計画における地域活性化政策に関する考察
- ・アダストリアとファーストリテイリングの成長戦略—2社の経営比較分析を中心に—
- ・日本における若年者雇用の現状と課題
- ・農業経営存続にむけた後継者不足対策について
- ・日本と海外における虐待の保護に関する比較研究～日本とイギリスの比較研究を中心に
- ・富山市の財源配分の現状と課題
- ・日本の大学スポーツの可能性と課題～日本版NCAAの分析を中心として～
- ・東京ディズニーリゾートの顧客満足度に関する考察
- ・日本の開業率向上における課題と展望
- ・トップスポーツクラブによる地域活性化～富山グラウジーズの分析～
- ・アニメの第三次産業を創出する
- ・地元プロスポーツチームの経営

- ・スポーツとスポンサー
- ・楽天の経営戦略
- ・コンビニエンスストアの戦略と展開
- ・株式取引における収益の向上と問題点-そこから学ぶ有効な取引方法とは
- ・飲食業の実態と進出～8 番ラーメンの実態を中心に～
- ・企業のブランディングとその重要性
- ・中国製造業に関する一考察
- ・中国における日本家電の隆盛と没落
- ・電子商取引と中国人の消費生活～アリババ集団を主にして～

2. 課題

経営情報専攻の専門演習では学生の個別指導に力をいれている。その指導に応じて学外学修を含め、積極的に学習し行動する学生が増えている。しかし、種々の問題を抱える学生を担当した教員は多くの時間とエネルギーをその学生に費やさざるを得ない現状には変わりはない。学力あるいは精神的に問題を抱える学生もあり、卒業研究での指導が困難な状況も見られた。これらについては、専攻教員間で情報交換をしながら全員で指導にあたる気持ちで取り組んできた。教育内容をさらに工夫し専攻学生全員の満足度を向上させていかなければならない。

専門演習での進路指導についても定期的な専攻会議や不定期の教員間情報交換を頻繁に行った。平成 29 年度も前年度に引き続き就職率 100%を達成し、公務員、金融機関、地元有力企業への就職が増加した。専攻での教育指導の成果の一部だと考えている。また、留学生を中心に大学院進学を志望する学生もあり、ゼミ担当教員が指導に当たっている。平成 29 年度も名古屋大学大学院、金沢大学大学院、富山大学大学院等に合格した。学部生のほか、研究生として大学院進学を目指す学生も別途指導時間を設けるなど手厚くサポートしているが、その成果が経営情報専攻の「強み」として留学生を引き付ける学生募集等に活用されているとはいいがたく、今後の課題である。

経営情報専攻科目の講義については、急速な社会の変化の中で陳腐化しない普遍的なスキル・リテラシーと、第4次産業革命時代の新たなリテラシーが求められている。教育内容の見直しを専攻全体としても続けていく。アクティブ・ラーニングに関しては、取り組みが拡大・定着してきたが、さらに改善を加え、学習成果が高まる工夫を続けていくことが課題である。

6. 留学教育

1. 留学生現状

国別	中国	韓国	ネパール	フランス	ロシア	総数
学部留学生数	44	4	1			49
交換留学生数	10	3		3	2	18
外国人研究生	2					2

学年別

1 年	9 名
2 年	5 名
3 年	8 名+9 名 (2+2)
4 年	11 名+7 名 (2+2)

(1) 奨学金受給状況：

学習奨励費	月額	48,000 円	1 名
朝日国際教育財団	月額	30,000 円	5 名
富山県国際交流奨学金	月額	50,000 円	3 名
富山県国際交流奨学金	月額	10,000 円	4 名
大学独自の奨学金	月額	20,000 円	36 名

(2) 宿舎別入居状況： 大学用意した留学生用宿舎 23 名 (16 名は 2+2)、民間アパート 26 名
交換留学生 18 名の宿舎も大学側が用意した。

(3) 実績と課題

在籍している 69 名 (研究生 2 名含め) の留学生は、ほとんど本学の海外にある協定校から派遣してきた 5 カ国の留学生であった。

近年来、昔と違って大学近くにあるアパートのほうは、市内に住むより人気が出ている傾向があった。通学には便利だけではなく、困ることやトラブルなど発生するときに、すぐ大学に助けをもらえるから。市内へ出かけるには、バスを利用したり、自動車を運転したりしているので、留学生たちは、おうむね安心で且つ充実な留学生活が送られている。その点においては、留学生派遣側からも評価を得ている。

ただ、留学生の数が増えられるとともに、大学近くにあるアパートの部屋数が足りなくなる現実もあった。

自立性が弱いかつ日本語能力も低い留学生が数名いるので、今後さらなるきめ細かな指導と温かい支援をし続ける必要があると思う。

29 年度、卒業に必要な単位が足りなくて卒業できない留学生が 1 名いた。
留学生それぞれの勉学意欲と日本語のレベルに大きな差があるのを認識している。これらを踏まえて、今後もいろいろな面での厳しい指導が求められると思う。

2. 日本語教育現状

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学の勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れてきた。1

年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の教育を行っていた。

(1) 通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語Ⅰ・Ⅱ (週2回)

実践日本語Ⅰ・Ⅱ (週2回)

上級日本語Ⅰ・Ⅱ (週1回)

日本語補習 (前期週2回(中野、才田) 後期週4回(中野、才田、黄2回)

※後期は大連海洋大学との教員交流制度で着任した黄桂峰客員准教授が、週2回の補習授業を担当することにより、前年度より充実した教育を行うことが出来た。

日本語総合 (集中講義)

※29年度後期から、秋入学された留学生(2+2)数が増えたので、日本語の補習授業も週に4コマ増えた。

(2) 通常の日本語補習の授業以外に、銭輝支援員・湯により日本語や生活などの指導を随時に行った。

(3) 実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験1級を取らないと卒業ができないという意識を今留学生の中で少しずつ持つようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。昨年の12月までのテスト成績の把握状況は次の通り

日本語能力検定試験各学年の合格者数：

	総人数	N1	N2
1年生	9	0	0
2年生	5	0	2
3年生	8+9(2+2)	6	8
4年生	11+7(2+2)	4	9

卒業するまでに日本語検定試験の1級に合格するという目標に達すまで、まだまだ距離があると認識している。これから、いかに留学生の日本語のレベルを高めてあげるか、ということは、課題だと思い、そして専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることは目下の急務であると認識した。

3. 留学の生活動指導

(1) 指導内容について

毎週の火曜日と木曜日の午後2:30～5:30の時間帯では、留学生を対象にする銭輝支援員による個別指導と支援を行った。必要に応じて特別教養演習も実施された。

内容は、日本語の勉強、日本の文化、伝統、生活習慣、日本の礼儀作法など、強制ではなく、自由参加の形であるため、参加者人数が多い時と少ない時もあった。そのほかに、留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスも随時に行われていた。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いできるチャンスを与えよう

というつもりで下記の体験活動を実施し、イベントへの参加を案内した。(安全管理・活動指導のために山崎・湯が殆ど同行した)

	行 事	期 日	場 所	参加人数 (留学生)
1	外国人留学生県内研修 (金岡邸、市内への見学、お花見)	4月8日(土)	富山市内	27
2	外国人留学生県内研修 (チューリップフェア会場 五箇山)	4月29日(土)	砺波市	30
3	外国人留学生県内研修(立山 雪の大谷)	5月13日(土)	中新川郡立山町	24
4	寿司職人による巻き寿司講習	8月2日(水)	富山国際大学	10
5	外国人留学生日本文化体験(生け花)	6月29日(木)	富山国際大学	16
6	中国人留学生による模擬店の開催	10月28,29日 (土・日)	富山国際大学	20
7	外国人留学生「黒部峡谷異文化体験」	11月4日(土)	黒部市	31
8	富山市国際交流フェスティバルへの参加	11月19日(日)	富山市	20
9	留学生日本異文化体験発表会の開催	同上	富山市	4
10	富山国際大学留学生総会・懇談会	12月25日(月)	富山国際大学	50

(2) 実績と課題

留学生が勉学以外に積極的に地域社会の活動、イベントに参加するようになりつつあるので、地域社会から一定の評価を受けていた。29年度もいろいろなボランティア活動への参加により、日本の社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。

今後より充実な留学生生活を送られるために留学生一人ひとりに日本人と触れ合い、お友達作り、積極的にコミュニケーションが取られるように努力をしてもらいたい。卒業後に日本社会に乃至母国に貢献が尽くせる有用な人材になれることを願っている。

7. 教育改善・FD 活動

1. 実績・現状

(1) ホームページや電子掲示板の活用

- ・学内外に部活対外試合の結果、ボランティア活動、ゼミの学外活動といった学生の活躍ぶりを広報するため、ホームページの活用を促進した。
- ・学内においては、図書館等入口と厚生棟内に設置した大型液晶モニターを電子掲示板として活用し、授業の変更情報、大学からのお知らせとともに部活対外試合の結果等、学生の活躍ぶりを全学生に知らせるよう配意した。また 4 号館 2 階ホールには掲示板を設置し、報道機関によりリリースされた学生や教員の活動を紹介している。

(2) 優秀卒業論文の表彰

- ・卒業論文の質を高めるため、平成 26 年度より学位記授与式の際に各専攻の優秀卒業論文卒業論文 2 点、計 6 点のパネル展示を行うようにしたが、平成 27 年度からは優秀卒業論文に選ばれた学生を、学部の学位記授与式において学部長表彰を実施している。平成 29 年度は以下の 6 名が表彰された。

平成 29 年度優秀卒業論文

氏名	専攻	論文題名
佐藤 叶汰	観光	小規模スキー場の存続に向けた取り組みと課題 ～たいらスキー場を中心に～
谷口 彩花	観光	地方中小都市の中心商店街の現状とあり方 ～小矢部市を対象として～
秋元 日南子	環境デザイン	黒部市音沢集落における小水力発電の可能性と住民意識
山崎 豊	環境デザイン	富山市の砂浜におけるマイクロプラスチックの現状
角田 さつき	経営情報	アダストリアとファーストリテイリングの成長戦略 ～2社の経営比較分析を中心に～
数下 勇一	経営情報	夕張市にみる若年層の人口流出問題に関する一考察 ～栗山・長沼町への人口流出を招いた要因を比較して～



卒業式での優秀卒業論文の掲示



卒業研究要旨集第 2 巻(2017 年度)

(3) 卒業論文要旨集の作成と配布

- ・全専攻の全学生の卒論要旨を作成することが必要であり、平成 28 年度から現代社会学部において、共通のフォームにて「卒業研究要旨集」を作成し、関係者に配布した。29 年度は 105 件の研究を掲載した。そのうち 48 件が地域の課題・活性化を題材として取り上げたものであった。

(4) 富山県寄付講義(現代社会学部)の運営一元化

- ・富山県寄付講義の現代社会学部部分は、従来年度末に近い時期にまとめて実施されがちであったが、より効果的に寄附講義を活用するために、学部学務委員会が全体計画を立て、後期の開始直後から開講が可能となるような体制を整えた。
- ・平成 29 年度は、以下の 6 講座が開講された。

平成 29 年度 現代社会学部 富山県寄付講義

番号	日時・会場	学部名・授業名・講義テーマ	外部講師
1	7月19日(水)	現代社会学部 観光専攻	赤阪 清隆 氏
	10:40~12:10	「国際関係論」	フォーリン・プレスセンター理事長
	東黒牧C 4号館 441室	「国連と日本」	
2	10月25日(水)	現代社会学部 経営情報専攻	中島 朋義 氏
	10:40~12:10	「経営情報概論」	公益財団法人環日本海経済研究所
	東黒牧C 4号館 441室	「北東アジアとFTA」	主任研究員
3	11月9日(木)	現代社会学部 環境デザイン専攻	炭谷 茂 氏
	13:00~14:30	「環境デザイン特別講義」	恩賜財団済生会 理事長
	東黒牧C 4号館 441室	「環境と福祉の接点」	富山国際大学客員教授
4	11月16日(木)	現代社会学部 環境デザイン専攻	小玉 祐一郎 氏
	13:00~14:30	「環境デザイン特別講義」	神戸芸術工科大学名誉教授
	東黒牧C 4号館 441室	「環境と住宅」	エステック計画研究所所長
5	12月7日(木)	現代社会学部 観光専攻	高原 千知 氏
	10:40~12:10	「観光概論」	元全日本国際線客室乗務員
	東黒牧C 4号館 441室	「航空業界と観光」	
6	12月11日(月)	現代社会学部 経営情報専攻	金 暎住 氏
	9:00~10:30	「経営戦略論」	韓国 大邱大学校 経商大学
	東黒牧C 1号館 101室	「コーポレートガバナンス」	貿易学科長 教授(本学協定校)

(5) 授業改善に向けたFD活動

1) 授業改善アンケート

- ・平成 29 年度の担当授業で行った授業改善の内容について、全専任教員を対象としたアンケートを実施した。結果は全教員に配布して知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員に配布した。
- ・平成 28 年度後期から WEB アンケートを行っている。教員も学生も実施については慣れてきている。WEB アンケートに変更してから、学生の回答率が低下しているので、改善を図るのが今後の課題である。

2) FD 研究会開催実績

①両学部 FD・SD 研修会 平成 30 年 2 月 28 日(木) 13:30～15:00

- 対象 : 全教員(教員全体参加率 85%)、職員
- 目的 : 全国の私立大学の動向、学生支援の最新状況を踏まえ、今後の本学の教育支援にどうつなげ、どう実現すればよいかを考察する。
- 内容 : 私立大学協会主催「教務部課長相当者研修会」報告、COC+事業の進捗状況報告

②現代社会学部教員相互授業参観 平成 29 年 10 月 1 日～12 月 25 日

- 対象 : 全教員(教員全体参加率 75%)
- 目的 : 他の教員が実施している授業について、自由闊達に意見を述べられるようにし、情報交換をすることによって、授業運営のスキルアップを図る。
- 内容 : 設定期間内に原則として 1 以上の授業を選択し、授業参観を行った。授業参観で出た意見を事務局で取りまとめ、授業実施教員にフィードバックするとともに、ティピカルな内容は教授会で周知した。

③現代社会学部 FD 研修会 平成 30 年 2 月 14 日(水) 15:00～16:30

- 対象 : 全教員(教員全体参加率 80%)
- 目的 : 2016 年 4 月施行の「障害者差別解消法」により、一人ひとりの困りごとに合わせた「合理的配慮」の提供が行政・事業者には義務化されている。本学に入学する学生においても、少なからず、障害を持っている学生がいる。各教員からも、障害をもつ学生にたいする「合理的配慮」とは具体的にどうすることなのかという疑問が多く、その疑問に答えるため、専門家を呼んで意見交換をした。
- 内容 : 柳川公三子氏(富山大学人間発達科学部附属特別支援学校教諭)による「障害を持つ学生への対応と支援について」の講演及び質疑応答

④その他の FD 活動 「平成 29 年度大学コンソーシアム富山 FD・SD 研修会」

平成 29 年 9 月 8 日(金) 13:30～16:30

- 対象 : 大学コンソーシアム富山構成組織の教職員(参加者 149 名、本学教員 5 名)
- 目的 : 教員の授業内容や教育方法などの改善・向上、職員の業務改善、サービスの向上を目指す。平成 29 年度のテーマは「高等教育機関における今後の教養教育」である。
- 内容 : 基調講演「これからの教養教育」(読売新聞社 論説委員 古沢由紀子)、事例報告 a. 「平成 30 年度からの教養教育の一元化に向けて」(富山大学 鳥海清司 副学長)、b. 「富山県立大学の教養教育について」(富山県立大学 石森勇次 教授)、c. 「富山国際大学における教養教育」(富山国際大学 大藪敏宏 准教授)。

2. 課題

(1) カリキュラムツリーの再整備やナンバリングの実施

- ・平成 30 年度、新たに「英語国際キャリア専攻」が加わり、現代社会学部は 4 専攻の構成となった。そのため、カリキュラムツリーを再整備した。
- ・平成 27 年度に出たナンバリング案は、改定後のカリキュラムに則して作成された。上記カ

リキュラムツリーに対してグループ化ができていますが、そのナンバーから紐づけられたシステム構成とはなっていない状況である。

(2) GPA の成績評価への活用

- ・平成 29 年度、GPA による学習指導と退学勧告制度を制定し、平成 30 年 4 月から運用することになった。成績評価が決定した時点で、当該学期の GPA が 1.0 未満の場合には、その回数に応じて、担当教員による学生本人や保護者に対する面談を行い学生に指導する。また、GPA1.0 未満取得回数によっては退学勧告を行う。
- ・現行制度では留学・インターンシップ等で修得した認定科目の単位が GPA の対象とならないため、留学・インターンシップに参加した学生ほど GPA 対象科目が減り、不利となる場合がある。また、意図的に登録単位数を減らし、良い成績をとった学生ほど有利になるなど問題を残している。
- ・成績分布が偏り、選択した科目による GPA の結果の不公正観を減少するのも課題である。平成 29 年度においては、能力別クラス編成としている科目における、成績の付け方をクラス間において調整を図ることにし、平成 30 年度から実施する。

(3) 卒業論文のレベルアップ

- ・卒業論文に関しては、優秀卒業論文の表彰の実施や各専攻による発表会の活発化により確実に内容が向上しており、卒業生アンケートでも卒論指導に対する満足度が向上している。
- ・一方で、学生によって内容のレベルに差が生じているのも否めない状況は依然存在する。
- ・卒論発表会は年に 2 回実施している専攻と 3 回実施している専攻があり、実施時期にも若干の差がある。専攻の考え方もあるので統一する必要はないが、どの時期の発表会をどんな意図で実施するのかについて明確にすることが課題となる。(現在 2 専攻が 3 回の発表会を実施している。)

(4) 授業改善に向けた F D 活動

1) 教員相互授業参観

- ・教員全体の相互参観授業は、多角的観点で極めて有効であるので、教員への多大な負担をかけないやり方で、継続していくべきである。
- ・教員相互ではなく、授業アンケートの結果から学生からの意見を授業改善に生かすべきであり、その仕組み作りが必要である。

2) FD ワークショップ及び FD 研修会

- ・現在の本学後援会会長は北日本放送のアナウンサー佐藤 栄治氏である。各教員から、「話し方についてお話を聞きたい」という意見が多くある。今後の FD 活動の検討に入れることが望まれる。

3) e ラーニングの活用

- ・e ラーニングは、PC やスマートフォンを用いて、学生自らが、基礎学力強化や就職のための一般常識試験対策が行える学習システムである。現代社会学部では、平成 29 年度は、各教員の独自の取り入れ方で、試験的に導入してきた。平成 30 年度は、教養演習において共通で学生に説明するとともに、取り入れ方も強化していく予定である。

8. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 学生主体の大学づくりに向けた取組み

1) 学生との意見交換会の開催

- ・学友会役員、大学祭実行委員、クラブ会会長および学長、**学部長**、学務部長、学部学務委員長との懇談会を開催し、学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望等の聴取を行った（平成 29 年 11 月 7 日）。28 年度に要望のあったロッカー設備の拡充や、夜間の照明、施設の空気調整については既に対処したほか、Wi-Fi など IT 環境の改善に関する要望については情報センターと連携し改善を図ることとした。
- ・学友会役員、学務部長、事務部長、学生課係長、学部学務委員と食堂の運営委託先企業担当者間で、食堂の活性化に関する意見交換を行った（平成 29 年 11 月 14 日）。食堂の待ち時間短縮に関する要望については午前中の食券前売りなどで改善を図ることとした。

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

- ・各種行事において学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回ることで学生の自主性向上に努めた。いずれの行事においても反省会を行い、それを次年度に生かすことで行事の活性化が図られている。
 - ① 新入生歓迎会（平成 29 年 4 月 7 日）
 - ② スポーツ文化交流会（平成 29 年 6 月 5 日）
 - ③ 学友会総会（平成 28 年 7 月 25 日）
 - ④ オープンキャンパス（平成 29 年 7 月 22 日、8 月 19 日）
 - ⑤ 大学祭（紅嶺祭）（平成 29 年 10 月 28～29 日）
 - ⑥ 東黒牧キャンパス交通安全運動（毎月 1 回）
 - ⑦ クリスマスイベント（イルミネーションの点灯、クリスマスケーキの配布）（平成 28 年 12 月～平成 29 年 2 月）
 - ⑧ クラブ会総会（平成 30 年 3 月 6 日）
 - ⑨ 卒業記念パーティー（平成 30 年 3 月 20 日）
- ・大学祭の活性化策として外部よりお笑い芸人（もりせいじゅ氏）を招聘したほか、バブルサッカーなどのイベント企画により、悪天候にも関わらず多くの外部参加者があった。
- ・子ども育成学部の学生と協働で実施する行事については、ウェブ会議やメールリストなど IT を活用することにより、スムーズな情報共有を図ることができた。
- ・学生の活動を、広報誌のコスモス通りやホームページで積極的に紹介した。

(2) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート（平成 29 年 9 月末に実施）

- ・通学に関しては、昨年に続き通学時間の長さが問題点として指摘されている。
- ・学業に関する満足度では、充実した授業、学力の向上、教授陣の充実、資格就職関連授業で満足度のいずれにおいても大きな変化は見られなかった。
- ・学外活動については、アルバイトをしている学生が増加しており、全体の 8 割を占めている。
- ・学生生活全般の満足度は前年とほぼ同水準で非常に満足・ほぼ満足の割合は 54%となっている。
- ・施設の満足度に関しても前年から大きな変化は見られない。子ども育成学部と比較して評価が高かった項目は、事務手続窓口、パソコン利用環境であり、評価が低かった項目はク

リーンな環境、喫煙ルールなどである。これらの対策として、交通安全運動の際にごみのポイ捨てや喫煙ルール違反につきチェックした。

2) 卒業生アンケート(平成 30 年 2 月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

- ・専門科目を「難解」とする割合が昨年比で約 20%増加して 25%になった分、「やや平易」以下がその分だけ減少した。
- ・大学での学習と学生生活を振り返って卒業までに成長したとする割合は昨年より 10%増の 60%となり、これまでの最高となった。
- ・本学で学ぶことを人に薦めたいと思う人の割合は 56%と 3%の微増となり、少し持ち直した。一方、就職指導に対する満足度がこれまでの最高であった昨年より約 10%減となった。
- ・ディプロマポリシー達成度については、大きな変動は見られない。

(3) 学生支援チームの発足

- ・学生生活に困難を抱える学生を支援する体制を強化するために、学部長、学部学務委員長を含む 4 名から構成される学生支援チームを新に設置し、9 月 27 日に第 1 回ミーティングが、そして 3 月 23 日に第 2 回ミーティングが開催された。そこでは配慮を要する学生に対する学生支援および留学生の指導に関して課題の抽出と対応策の検討がなされた。配慮を要する学生に関しては、学習指導のみならずキャリア支援センター等と連携し一貫したサポート体制を築く必要があること、留学生については語学担当教員との連携やチューター活用の必要性などに関する検討がなされた。

(4) 学生活動の広報活動

- ・学生の学外における活動(富山県青年議会への参加、まちづくりコンペティションへの参加、国際交流イベントへの参加等)や、部・サークル活動の業績などを積極的にホームページで紹介した。

(5) 交通安全指導

- ・学生主体の交通安全運動を継続した。その際、ティッシュ配付にともなう交通安全の呼びかけだけではなく、駐車場の利用などマナー向上に関する呼びかけも実施した。

(6) クラブ・サークル活動(休部中のものを含む)

[部・10 団体]硬式テニス部(休部中)、硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、男子バスケットボール部、ボート部、軽音楽部、茶道部、吹奏楽部、ボランティア部

[サークル・11 団体] バドミントンサークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、中国サークル(休部中)、経済リサーチサークル、B 研(ビジネス資格研究会)、バスケットサークル、ダンスサークル、English Media Club(新規)、茶道サークル(新規)

(7) 「夢へのかけ橋助成事業」の改善、活性化

- ・ゼミ単位での夢へのかけ橋助成事業への応募等を検討した結果、平成 29 年度は継続的案件である「国際貢献活動：ムラブリ寄り添いタイ Food Education」に加え、新たに「花で大学を華やかに」、「地方都市における財政破綻に関する調査・研究～夕張市における産業構造の転換と人口問題の観点から～」が採択された。

2. 課題

(1) 学内環境の改善に向けた課題

- ・ 学生生活アンケートでは交通手段の拡充に関する要望が強い。交通機関との調整等、学内外の調整が必要な事象であり対応は容易ではないが、学生からの要望が強いとの認識を学内で共有し、必要に応じて外部の関係団体と交渉する。

(2) 交通安全の強化

- ・ 交通事故ゼロを目指し、従来の交通安全啓蒙活動に加え、新たな交通事故防止のための取り組みについて検討する。

(3) 子ども育成学部との交流

- ・ 子ども育成学部との交流機会については、スポーツ文化交流会が年に1度あるほかは異文化研修などに限られている。両学部の交流の活性化につき検討する。

9. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) インターンシップ（8月～9月）

①「富山県インターンシップ推進協議会」主催のインターンシップには 39 名の学生が参加し、県外企業へのインターンシップにも 1 名参加し、計 40 名全員の単位が認められた。

10月18日（水）研修報告会実施（学内選抜を兼ねる）。

11月15日（水）学内報告会（学外発表者選抜を兼ねる）。

12月15日（金）学外発表会（富山県立大学）本学からの発表者：矢沼一誠

②COC+事業と連携した地域課題解決型インターンシップ（文理融合型）において、文系学生として本学部環境デザイン専攻の学生（全4名）と、理系学生として富山県立大学の学生がチームを組み、インテック㈱および日本海ガス㈱において3週間の長期インターンシップを実施した。その結果は以下のように、COC 主催による合同報告会にて発表された。

- | | |
|-------|---|
| ■タイトル | 新たなインターンシップ報告会(H29 年度) |
| ■開催日 | 2018 年 1 月 26 日(金) 開場 15:30 開会 16:00(～18:30) |
| ■会場 | 富山国際学園サテライトオフィス「地域交流センター」 |
| ■主催 | とやま人材育成を考える会 ～インターンシップを通じて～
富山大学・富山県立大学・富山国際大学 |

③本年度は海外インターンシップの希望者が無く、実施されなかった。

(2) 「職場研修及び企業訪問」

大学コンソーシアム富山主催の本研修については現代社会学部3年生に参加を呼びかけ申込者全員が参加し、富山大学、富山県立大学等の他学と合同にて、本学の積極的参加の下に終了した。

(3) 「平成 29 年度 企業・事業所・大学講演会」

日時：2017 年 11 月 22 日（水）16:00～19:00

場所：富山電気ビルディング 5 階 大ホール

講師：コーセル株式会社 代表取締役社長 谷川 正人 氏

演題：「働き方改革について」

講演会出席者： 142 人 （企業 92 人、教員 34 人、職員 16 人）

懇親会出席者： 126 人 （企業 77 人、教員 34 人、職員 15 人）

(4) 模擬面接実習の実施

就職の個人面談に向けた実習を下記の2回に分けて行った。3月の合同企業説明会、2018年度の就職活動に向けた本格的スタートとも言えるが、ややマナー面での課題も残った。

① 12月18日（月）～ 22日（金）

② 1月25日（木）～ 30日（水）

(5) 合同企業説明会

日時：2018年3月8日（木）、3月12日（月）

場所：本学厚生棟

・3月8日（木） 参加企業数 92 社、参加学生数 104 人

・3月12日（月） 参加企業数 90 社、参加学生数 95 人

「アンケート結果」については、「求人状況」、「印象に残った学生」といった内容も含むため、ゼミ担当教員全員に配布した。

また、近年子育てや介護に参入する企業もあり、専門職を希望する学生も参加する余地があるのではないか、留学生の参加を期待していた企業もあり、子ども育成の学生や留学生への周知方法について次年度に向けて改善していく事を確認した。

(6) 教養演習Ⅱにおける SPI

昨年に引き続き、キャリア科目のない2年生に対し、教養演習において20～30分程度、毎回SPIを取り上げた。

2017年度に引き続き、「経営者講座」を2年次のキャリア科目として開講した。

(7) 公務員採用試験対策

（この項担当：後藤智・伊藤葵）

対策講座（PAP 講座）を通じて、地方公務員上級職1名の合格者を輩出できた。それも含め全体としての公務員採用は、市の行政職2名、消防1名、警察2名の計5名である。2018年度のPAP 講座「ステップ4」（4年生対象）を受講する学生は、3名。また、2018年度から、公務員試験対策としてのみならず、就職試験対策としても機能するような、3年生を主対象とする新講座を開設することとした。それに伴い、PAP 講座は、徐々に縮小していくこととなった（2018年度は2年生以上を対象に「継続」）。

(8) 就職状況

昨年に引き続き、就職希望者に対し100%を達成した。公務員では、小矢部市役所、砺波市役所に各1名、富山市消防局に1名、富山警察署に2名が合格した。また、大学院進学者は、金沢大学大学院人間社会環境研究科1名、富山大学大学院経済学研究科3名、京都情報大学院大学2名、大阪経済大学1名であった。

(9) 資格取得状況

キャリア形成を促進し、学習意欲を向上させるために各種資格の視点を行っている。各種資格取得状況は表1に示すとおりである。

2. 課題

- (1) 就職希望者において、精神面で脆弱な学生の就職支援の在り方については、保護者、専門家も含めた形で進める体制を整えることが求められよう。
- (2) 企業研究についての指導が必要である。必要な準備もなく各種面接に臨むケースが依然として見受けられる。基礎力の不足も否めない。
- (3) 学生の企業理解についてはさらに、企業に関する一般的知識を持ったとしても知識が上滑り

- で理解が浅い。この是正策として 30 年度には OB/OG による企業懇談を行う予定としている。
- (4) 公務員試験対策 (PAP) については 30 年度から改めて体系化し、新カリキュラムでスタートした。しかし受講生数が伸び悩んでおり存続も含めた検討が必要であろう。
- (5) 合同企業説明会については、学生が訪問しない企業への対応が難しい課題として残っている。
- (6) 富山県職業安定所(ハローワーク)からの隔週で第 1・第 3 金曜日 午後から 1 時間 30 分相談員が来校し、企業情報・指導(履歴書・エントリーシート・模擬面接指導)の相談をいただいているが、昨年度より、時間が 90 分縮小されたから新たな体制作りが必要であろう。
- (7) 留学生の日本企業への就職傾向が出てきており、留学生の採用に積極的な企業情報の拡充が必要となろう。また、日本人学生でも県外へ就職する学生、あるいは U ターン学生への支援も重要な課題であろう。

表 1 平成 29 年資格取得状況

資 格	受検者	合格者	合格率
日本語検定 3 級	8 名	8 名	100%
ビジネス能力検定 3 級	112 名	92 名	82.1%
ビジネス能力検定 2 級	32 名	23 名	71.9%
ECO 検定	31 名	20 名	64.5%
国内旅行業務取扱管理資格	7 名	6 名	85.7%
総合旅行業務取扱管理資格	2 名	0 名	0%
日商簿記検定 3 級	25 名	2 名	
日商簿記検定 2 級	29 名	1 名	

10. 国際交流

1. 海外教育機関との協定

(1) 新たな学術交流協定校（大学）

- ・ラーチャモンコン工科大学（タイ） H29（2017）. 5. 1
- ・マルタ大学（マルタ共和国） H29（2017）. 12. 11
- ・セントラルフィリピン大学（フィリピン） H30（2018）. 1. 31

(2) 新たな交流協定校（その他の教育機関）

- ・サットリーシーナーン校（タイ）との高大連携協定 H29（2017）. 12. 20

(3) 協定終了

- ・リッチモンドインターナショナルカレッジ 学校閉鎖のため
- ・サセックスダウンズカレッジ 15年以上コンタクトも派遣実績もないため

※協定見直しの結果、H30年（2018）4月現在の協定大学数は10ヶ国20校となった（表1）。

NO.	名 称	国
1	Portland State University	アメリカ
2	University of Lethbridge	カナダ
3	Southern Cross University	オーストラリア
4	La Trobe University	オーストラリア
5	EMBA - Ecole de Management de Bretagne Atlantique(旧 ISUGA)	フランス
6	Vladivostok State University of Economics and Service	ロシア
7	ファー・イースタン大学	タイ
8	中国海洋大学	中国
9	鶴岡師範高等専科学校	中国
10	大連海洋大学	中国
11	南通大学	中国
12	ハルビン理工大学(栄成学院)	中国
13	遼寧師範大学歴史文化旅遊学院	中国
14	鞍山師範学院	中国
15	聖公会大学校	韓国
16	大邱大学校	韓国
17	テグ カンイ ダイガク 大邱韓医大学	韓国
18	コウカ ダイガク ラーチャモンコン工科大学	タイ
19	マルタ大学	マルタ
20	セントラルフィリピン大学	フィリピン

表1. 協定大学リスト（2018年4月現在）

2. 外国人留学生受け入れの現状

(1) 外国人留学生受入数 38 名 (表 2)

- ・学部新 1 生 9 名 (天津社会科学院 4 名、韓国・議政府女子高等学校 3 名、富山国際学院 1 名、富山ビジネス専門学院 1 名)
- ・学部編入生 9 名 (大連海洋大学 3 名、南通大学 4 名、鞍山師範学院 2 名)
- ・交換留学生 18 名 (大連海洋大学 5 名、大邱大学 1 名、大邱韓医大学 2 名、ウラジオストック経済サービス大学 2 名、EMBA 3 名、ハルビン理工大学 2 名、鞍山師範学院 3 名)
- ・研究生 2 名 (大連海洋大学 2 名)
- ・国籍内訳：中国 20、韓国 6、ネパール 1、フランス 3、ロシア 2

受け入れ外国人留学生数は 2015 年に落ち込んだものの、その後は毎年増加傾向にある。これは、日本語学校出身者 (学部 1 年生入学) は国内、海外ともに低迷を続けてものの、ダブルディグリー入学が増加していることによるものである。

表 2. 外国人留学生受け入れ推移

入学者数	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
海外日本語学校	14	20	21	18	10	12	10	3	5	4
国内日本語学校	0	0	2	1	0	4	1	4	0	2
2+2	0	0	0	0	4	2	2	1	9	9
海外の高校	0	0	2	0	0	0	0	1	1	3
正規生合計	14	20	25	19	14	18	13	9	15	18
交換留学	17	17	14	15	17	15	10	9	14	18
研究生	0	8	7	7	0	8	5	0	3	2
受入留学生総数	31	45	46	41	31	41	28	18	32	38

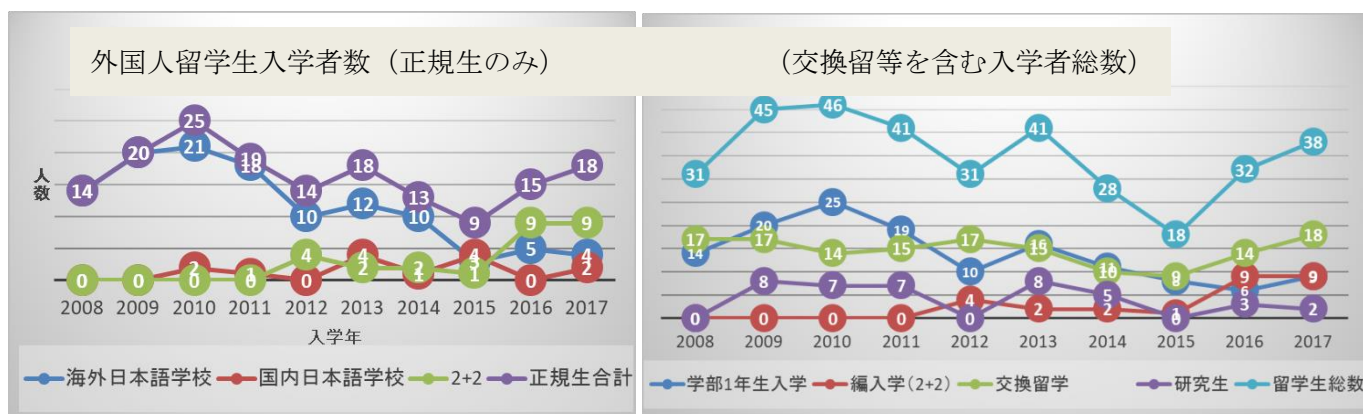


図 1. 外国人留学生入学者数の推移 (左)：正規生のみ、(右)：交換留等を含む入学者総数

(2) 外国人留学生に対する支援

①授業料減免

2017 年度正規学部入学生は、全員、授業料 40%減免の対象となっている (表 3)。そのうち、協定校出身者 (14 名) には毎月 2 万円が奨学金として支払われている。また、成績優秀者に外部奨学金も授与されている (表 4)。

表 3. 平成 29 (2017) 年度正規入学生出身校及び授業料減免数

出身校	所在国	減免学生数/氏名	
大連海洋大学	中国	3	秦ゲツ、カツ、張コウリン
南通大学	中国	4	周リキコウ、呉燕南、黄、孫家桐
ハルビン理工大学 (栄成学院)	中国	0	
鞍山師範学院	中国	2	周 美岑、孫ムキ
天津社会科学院・天津国際言語文化進修学院	中国	4	王 帥、カク、カンネイ、張シヨウ
韓国の高校 (諸活動奨学生)	韓国	3	ウネ、ジェヒ、ユニ
富山国際学院	日本	1	ソウガット
富山情報ビジネス専門学校	日本	1	王闢
合計		18	

表 4. 平成 29 (2017) 年度奨学金受給人数 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

奨学金名	金額 (月額)	受給人数
富山国際大学奨学金	2 万円	28 名
富山県国際交流奨学金	5 万円	3 名 : 王丹 (4 年生) 、卞雪婷、邢婷婷 (3 年生)
	1 万円	4 名 : 王闢、洪恩恵、姜在禧、崔允二 (1 年生)
J a s s o 学習奨励費	4 万 8 千円	1 名 : 梁希悦 (2 年生)
朝日国際教育財団	3 万円	5 名 : 孫麗霞 (4 年生) 、 張蔓玉、陳思雨、王坤、孫婷婷 (3 年生)

②留学生の日本文化体験及び地域交流支援

留学生が日本文化を理解し、日本に早く溶け込んで勉学に励むことができるよう様々な取り組みを行っている (表 5)。留学生の多くが各種イベントに参加し、日本人との交流や日本文化理解に努めている。

表 5. 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数

	事業名	期間 H29 年	参加人数
1	留学生県内研修 (市内、花見)	4 月 8 日 (土)	27
2	チューター募集説明会	4 月 11 日 (火)	10
3	留学・海外研修プログラム説明会 (東黒牧&呉羽)	4 月 19 日 (水)	65
4	留学生県内研修 (砺波チューリップフェア、五箇山)	4 月 29 日 (土)	30
5	留学生県内研修 (立山・雪の大谷、立山博物館)	5 月 13 日 (土)	24

6	チエルネット説明会（現社・2年生）	5月25日（土）	100
7	金沢百万石まつり	6月3（土）4（日）	6
8	生け花を体験しよう	6月29日（木）	16
	留学生就職説明会開催	7月5日（水）	29
9	国際交流 BBQ by 国際交流サークル	7月23日（日）	28
10	寿司職人による巻き寿司講習	8月2日（水）	10
11	サマースクール（南通大、哈爾濱理工大、鞍山師範学院）	8月1～8日	18
12	English Camp@立山青少年自然の家	9月26～28日	
13	留学生県内研修（黒部峡谷）	11月11日（土）	31
14	富山市国際交流フェスティバル（留学・海外研修報告）	11月12日（日）	16
14	留学生総会・懇親会	12月25日（月）	49

（3）留学生の学修状況

毎年2回（7月、12月）日本語能力試験が実施されている。留学生には進級までにN2を卒業までにN1を取得すること義務付けている。しかし、合格率（取得率）はN2が39%、N1が20%に留まっている（表6）。

表6．日本語能力試験合格者数

	在学生数	N1 合格	N2 合格	合格者氏名
1年生	9	0	2	王チン、ソウガット
2年生	5	0	2	徐安然、梁キエツ
3年生	17	5	8	N1 =何ムケツ、リュウタク、孫テイテイ、王コン、呉エンナン N2 =経アイナ、高エン、エンタク、秦ゲツ、カツ、張コウリン、黄、周リキコウ
4年生	18	5	7	N1 =王丹、孫レイカ、張マン玉、トウトウ、程セツバイ N2 =リナ、楊テイテイ、張ウケツ、陳シウ、刘合、ベン、李清宇
合計	49	10	19	
取得率		20	39	

（4）留学生の進路（2018年3月卒業及び修了生）

2017年度の学部卒業生は7名、そのうち1名のみが県内企業に就職し、他の6名は全員、大学院へ進学した（表7＆8）。また、研究生3名全員が大学院に進学した（表9）。

表7．県内企業への就職（学部卒業生）

N o	氏名	出身国	企業名
1	張 雨傑	中国	ファインプラス株式会社

表8．大学院進学（学部卒業生）

N o	氏名	出身国	進学先
1	丁 治源	中国	京都情報大学院大学
2	李 娜	中国	大阪経済大学大学院
3	楊 婷婷	中国	富山大学大学院
4	張 佳妮	中国	京都情報大学院大学
5	程 雪梅	中国	富山大学大学院
6	孫 麗霞	中国	富山大学大学院

表9．大学院進学（研究生）

N o	氏名	出身国	進学先
1	于 咏雪	中国	京都情報大学院大学
2	左 俊佳	中国	名古屋大学大学院
3	張 璽文	中国	富山大学大学院

3．日本人学生の海外留学、海外研修等への参加状況

現代社会学部では、10%を留学させ、全員に海外体験をさせることを目標にしている。また、子ども育成学部では海外体験学生10%を目標としている。そのために留学先の拡大や様々な海外研修プログラムを実施している。

（1）本学学生の海外派遣数 81名

- | | |
|---|-----|
| ① インターナショナルプログラムズ(短期)
(オーストラリア5週間1名) | 1名 |
| ② インターナショナルプログラムズ(長期)
(フランス1、カナダ2、韓国3) | 6名 |
| ③ 海外インターンシップ (カナダ) 3週間 | 1名 |
| ④ 異文化研修(中国 H29年9月5日～9月12日 8日間) | 5名 |
| ⑤ 異文化研修(韓国) H29年9月4日～16日 (12泊13日) | 13名 |
| ⑥ 異文化研修(韓国) H30年3月6日～17日 (11泊12日) | 3名 |
| ⑦ 異文化研修(タイ) H29年8月15日～9月2日 (18日間) | 7名 |
| ⑧ 国際交流実習(タイ) H29年3月3日～3月17日 (15日間) | 6名 |

⑨ ゼミ研修（上海）	H29 年 9 月 19 日～23 日（5 日間）	8 名
⑩ 香港・マカオ	H29 年 9 月 4 日～8 日（5 日間）	6 名
⑪ デンマーク	H29 年 8 月 27～9 月 4 日（9 日間）	13 名
⑫ 異文化研修(カナダ)	H30 年 3 月 3 日～3 月 16 日（14 日間）	12 名

表 10. 両学部合計海外派遣数

両学部合計派遣数	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
留学（3ヶ月以上）	2	2	1	4	3	5	1	4	8	6
留学（1ヶ月程度）	2	2	3	2	2	1	3	5	3	1
留学合計	4	4	4	6	5	6	4	9	11	7
研修（教員引率）	8	27	20	24	31	32	14	34	54	73
インターンシップ	0	0	0	0	0	0	3	2	3	1
派遣合計	12	31	24	30	36	38	21	45	68	81

2017 年度は、派遣学生数が前年を大きく上回ったものの、現社は目標に程遠く、ひと学年の 50% となっている。2017 年度入学生の海外志向が弱く、9 名しか参加していない（過去 2 年間は其々 21 名参加）。子ども育成学部は異文化研修カナダ、タイへの参加者が多く、目標を達成している。

図 2. 両学部合計海外派遣数

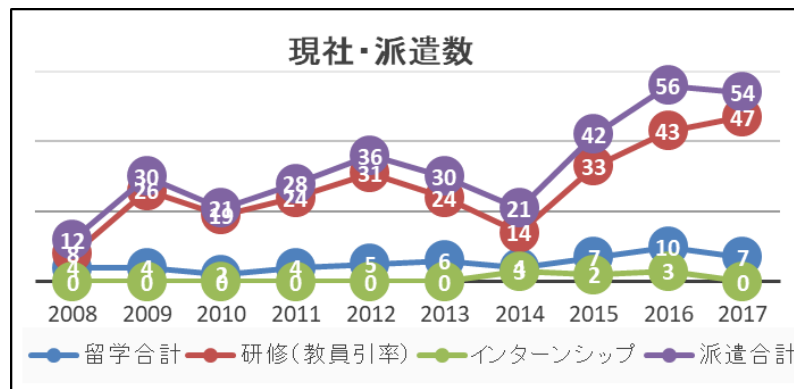
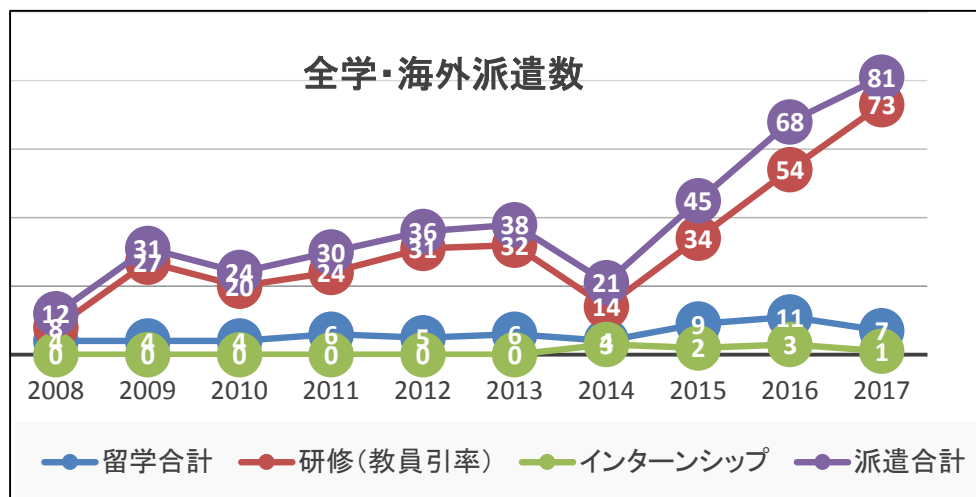


図 3. 現社海外派遣数

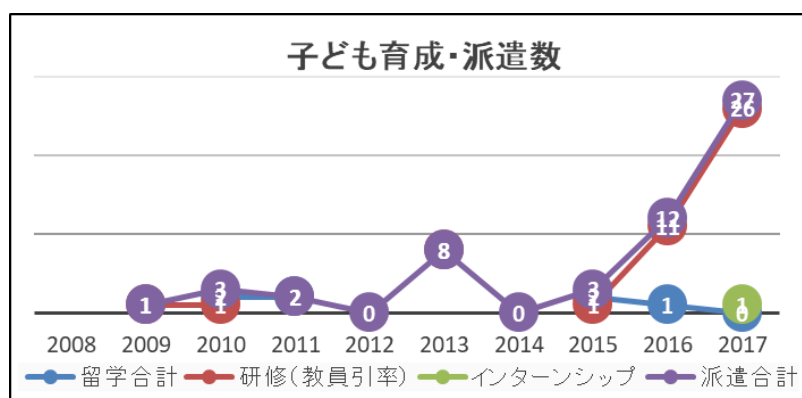


図4. 子ども育成学部海外派遣学生数

4. 英語力を高める取組み

(1) TOEIC 集中講座

学生の英語力を高めることを目的に、夏季休暇と春休み中に集中講座を行い、現代社会学部4名、子ども育成学部5名の計9名の学生が参加した。

(1) 8月10日(金) 09:10～16:20

(2) 8月11日(土) 09:10～16:20

(3) 8月12日(日) 09:10～16:20

(2) チェルネット

クラウド型英語学習教材スーパー英語を私立大学改革総合支援事業経費で導入し、在学生全員及び教職員の希望者が無償で使えるようになった。これにより学生のみならず教職員もオンラインで学習できる環境を整えることができた。学生の利用状況下表11の通りである。

表11. チェルネット 2017年度利用結果 (調査日 2018/4/25)

2017年度	現代社会学部			子ども育成学部		
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生
受講者人数	119	98	126	128	92	95
最大学習時間(分)	795	135	188	347	0	0
学習時間(分)	人数			人数		
0	74	56	113	40	92	95
1～60	38	41	4	82		
61～120	4	0	1	1		
121～240	1	1	1	4		
241～480	0	0	0	1		
480以上	2	0	0	0		
ログイン率(%)	87.4	52.0	8.7	75.8	0.0	0.0

※0分には未ログイン人数も含まれている。

(3) TOEIC 受験の推進

本学学生のための TOEIC 集団テスト (TOEIC IP) を 4 月と 9 月に実施した。4 月は東黒牧キャンパス、9 月は呉羽キャンパスを会場とした。それぞれの受験者数は以下の通りである。また、過去 3 回のテスト結果の集計を表に示す。得点を 4 つのカテゴリー (470 点未満、470～600 点未満、600～730 点未満、730 点以上) に分け、それぞれの人数を集計した。受験者数は減少傾向にあり、平均得点は現社が 450 点前後、子ども育成は 350 点前後を推移し、両学部とも著しい伸びは見られない。また、600 点以上得点者が現社で 2 名、子ども育成で 1 名の合計 3 名となった。

- 1) 第 1 回 TOEIC IP テスト実施 H28 年 4 月 1 日 現社 13 名、子ども育成 11 名受験
- 2) 第 2 回 TOEIC IP テスト実施 H29 年 9 月 30 日 現社 9 名、子ども育成 7 名受験

表 12. TOEICIP テスト学部ごとの集計結果

	現代社会学部			子ども育成学部		
試験日	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月
受験者数	6	13	9	20	11	7
～470	2	6	6	18	9	5
470～599	4	5	3	1	1	2
600～729	0	2	0	1	1	0
730 以上	0	0	0	0	0	0
平均点	458	468	409	354	384	341
最高点	585	630	565	610	620	520

表 13. TOEIC IP テスト 2 学部合計集計結果

現社・子ども合計	2016. 10 月	2017. 4 月	2017. 9 月
受験者数	26	24	16
～470	20	15	11
470～599	5	6	5
600～729	1	3	0
730 以上	0	0	0
平均点	391	445	400
最高点	610	630	565

4. チューター学生

日本人チューターは留学の日本語や授業支援などを行う。また、留学生チューターは、中国語や韓国語を母国語とする留学生が、日本人受講生のサポートをし、語学力向上に貢献している。2017年度は日本人13名、留学生9名の学生をチューターとして採用した。

No.	氏名	学年	No.	氏名	学年
1	大塚 梨菜	1	12	松倉 希望	3
2	紅谷 美希	1	13	西井 友里奈	3
3	鉄山 朋美	1	14	姜 在禧（留学生）	1
4	牧 杏花	2	15	崔 允二（留学生）	1
5	高林 祐実	2	16	洪 恩恵（留学生）	1
6	大西 愛理	2	17	張 馨元（留学生）	3
7	牧 大登	2	18	黄 河舟（留学生）	3
8	石原 豪	3	19	孫 家桐（留学生）	3
9	室 真優	3	20	呂 浩（留学生）	3
10	加賀谷 美嬉	3	21	趙 曉晶（留学生）	3
11	土肥 愛世	3	22	崔 慧仁（留学生）	3

5. 学内の国際化への取組み

（1）SD・FD 研修会開催

- ・語学力向上のためのSD研修会（英語）8月2日（水）10:00～11:30

講師：パブリーボグダン講師 事務職員12名参加

- ・英語で授業を行うためのFD研修会 8月9日（水） 教員18名参加

講師：ポカロ非常勤講師

（2）海外協定校との教員交流

- ① 大連海洋大学黄講師を客員教授として招聘 H29年9月28日～30年1月30日

※日本語授業2科目担当

- ② 才田春夫現代社会学部教授を南通大学杏林学院客員教授として派遣

H30年3月20日～3月27日 ※6コマの日本語授業を担当

（3）グローバル人材育成副専攻開設記念「国際交流フォーラム」

開催日：平成29年7月8日（土） 13:30～16:00

開催場所：TOYAMA キラリ ファーストバンク・キラリホール

参加人数：一般 45人、大学生129人、高校生66人、教職員 20人、合計260人

基調講演：ピーターフランク氏

学生発表 ①中国での留学体験

布施 和佳奈

②子ども育成専門職のためのカナダ研修

石塚 千里・村藤 早紀

③タイ・ムラブリ族支援活動 国際交流サークル 新村 真由

司会 福島美恵子 富山国際大学国際交流センター次長

(4) 私立大学改革総合支援事業のグローバル化対応に選定される。2年連続

(5) 海外訪問団受け入れ

・大邱韓医大学訪問団

7月11日6名

・EMBA Kervinio 学院長及び山本先生来訪

3月29日

6. 成果と課題

①「英語留学ができる大学」と「編入学の安定的な確保」の観点から海外協定大学の見直しを行った。その結果、15年以上連絡を取らず交流実績ない、イギリスの Sussex Downs College と閉校になったカナダの Richmond International College の協定を破棄した。一方、比較的安価で英語留学可能な2校（マルタ共和国立マルタ大学及びセントラルフィリピン大学）を新たに協定校として追加した。その結果、海外協定校は10か国20校となった。文化的背景と留学経費が異なる協定校が増えたことにより、より多くの学生に留学の機会が提供できるようになってきた。多様な社会のニーズに応えられる人材を輩出する教育機関として、今後も多様な留学先の拡大を図らねばならない。

② 中国人の日本留学数の減少に歯止めがかからず、編入生（ダブルディグリー）の受け入れに力を入れてきた。中国の5つの大学とダブルディグリー協定を結び、毎年2回の入学試験を実施している。5つの協定校のうち南通大学が学生確保に最も強力的だが、安定的な学生確保になっているとは言い難い。基礎学力も日本語レベルも高く、勉強熱心な学生を安定的に確保するためには、更にダブルディグリー協定校を増やす必要がある。ダブルディグリー協定校は韓国にも2校（大邱大学、大邱韓医大学）を作ったが、編入生の確保に結び付いていない。韓国の2校それぞれから交換留学生在が複数入学していることから、将来的には編入学の可能性もあると思う。このことから、安定的な入学者確保の点から考えると、中国で新規のダブルディグリー協定校を開拓する必要がある。

③ 海外派遣学生数は2015年以降両学部とも順調に増加している。2017年も全学的には大幅に増加したが、学部別にみると現社は昨年より減少している。一方、子ども育成は大幅に増加した。異文化研修参加者が多かったことによるものである。両学部とも、異文化研修参加数は増えたが、留学者数が減少したことは反省材料として残る。

現社の海外派遣数減少の最大の要因は2017年度入学生の海外志向が少なかったことがあげられる。異文化研修に参加した1年生は9名しかおらず、これは過去4年間の1年生の中で最も少ない人数だった（下表緑枠）。下表の赤枠、黒枠が示すように、1年生の時に参加者数の多い学年は、翌年も多くの参加する傾向にある。このことから考えると、1年生が参加したくなるような海外研修プログラムの開発が重要である。残念ながら2018年は2年生の参加者が少ないと予想される。

	現代社会学部	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
2017		9	26	15	4
2016		21	25	10	0
2015		21	9	5	4
2014		14	1	4	1

	子ども育成学部	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
2017		18	6	1	2
2016		6	5	1	0
2015		1	2	0	0
2014		0	0	0	0

- ① 28年度に新設したグローバル副専攻には14名の学生が登録した。4年生の登録がなかった。副専攻修了書取得を目指して海外での活動に参加する学生が少なからずいることから、グローバル副専攻設置は学生のグローバル志向の育成に貢献していると言える。正規科目にない海外や地域での活動の多様化を図ることが、副専攻プログラムの魅力づくりになるものと思われる。
- ② チェルネット（クラウド型英語学習システム）の利用状況は思わしくなかった。1年生はチェルネット利用オリエンテーションでログインとパスワード変更までやらせ、利用法の説明を行ったことから、両学部とも利用者数が最も多かった。学部別にみると現社では学年が上がるにつれ利用者数が少なくなり、2年生では約5割3年生では1割以下と極端にすくなかった。3年生は英語授業履修の機会減少によって、利用を促される機会が減ると共に英語の学習意欲も減っていることが要因と考えられる。子ども育成学部の2年生以上は誰もログインをしていなかった。これらの学年でのオリエンテーションが不十分だった。

利用率を上げるためには以下のことを行うべきである。①すべての学年に対してPC持参のオリエンテーションを行うこと。②英語などの授業や宿題として利用。③2年生以上の学年は英語科目を履修する学生が少ないため、ゼミやその他の授業での利用を呼び掛ける。④利用者に対するケア（例えば進捗状況に応じたアドバイスなど）。

11. 地域交流・地域貢献

1. 実績と現状

《地域交流》

(1) エクステンション・カレッジ及びサテライト市民講座Ⅰ・Ⅱの実施

- ・エクステンション・カレッジ語学講座

下記の英語、中国語講座4講座を開講した。

- ・実用中国語（前期・後期）

- ・英語（前期）“Let’s enjoy talking to each other in English”

（後期）“Let’s enjoy discussing things in English”

- ・「サテライト市民講座2・3」（講演会形式）は、環境、法学、経済、マーケティング等の分野のテーマで8講座を開講した。

(2) エクステンション・カレッジ特別講演の実施

日時：9月9日（土） 13：30～15：00

講演者・演題：高橋 敬市 氏 『富山ー水からはじまる物語』

参加者数：99名

平成29年度各講座の受講者数（一部、子ども育成学部を含む。）

平成29年度 現代社会学部・子ども育成学部 サテライト市民講座 受講者数				
・調査対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日				
講座番号	開講日時	講座名	講師	受講者数
サテライト市民講座1				
1	5月20日（土）	身近な道具を使った筋力トレーニングで健康な毎日を！	金子 泰子	19
2	5月27日（土）	働きやすい職場を目指して～具体的なトラブルから考える～	彼谷 環	10
3	6月3日（土）	行動パターンと心身の健康	大平 泰子	15
4	7月8日（土）	富山遺産としての南原繁の教育哲学ー来県百周年を記念してー	大藪 敏宏	7
サテライト市民講座2				
5	8月26日（土）	環境リスクと環境基準	高橋 ゆかり	6
6	9月2日（土）	『法治国家 日本』は大丈夫か？ーその危うい状況	後藤 智	10
7	9月16日（土）	水素社会への基礎知識	上坂 博亨	10
8	11月4日（土）	初めてのスマートフォンアプリ作成	高尾 哲康	4
サテライト市民講座3				
9	11月18日（土）	日本経済が抱える問題点とその影響について	大西 一成	6
10	11月25日（土）	笑いのすずめ	大谷 孝行	11
11	2月3日（土）	暮らしの経済ー地域社会の活性を中心にー	大西 一成	8
12	2月17日（土）	ヨーロッパで見た再エネ利用の新しいかたち	上坂 博亨	2
合 計				108
平成29年度 エクステンション・カレッジ 受講者数				
・調査対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日				
講座番号	開講日時	講座名	講師	人数
特別	9月9日（土）	富山ー水からはじまる物語	高橋 敬一	99
高齢者向け講座	9月28日（木）	健康寿命を延ばす いきいきトレーニング	金子 泰子	4
合 計				103
講座番号	開講日時	講座名	講師	人数
1	5月10日～7月12日（10回）	実用中国語（前期）	湯 麗敏	9
2	5月13日～7月15日（8回）	Let's enjoy talking to each other in English.（前期）	福島 美枝子	6
3	10月4日～12月6日（10回）	実用中国語（後期）	湯 麗敏	8
4	10月7日～12月2日（8回）	Let's enjoy discussing things in English.（後期）	福島 美枝子	7
合 計				30
平成29年度 南砺サテライト リレー講座 受講者数				
・調査対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日				
講座番号	開講日時	講座名	講師	人数
1	4月15日（土）	高齢者がいきいきできるまちづくりとは	長尾 治明	10
2	5月13日（土）	わかって安心！今日から取り組む認知症予防	相山 馨	5
3	5月13日（土）	光の不思議を体験しよう	松山 友之	5
4	6月17日（土）	日本語に入った英語・英語に入った日本語	福島 美枝子	7
5	6月17日（土）	楽しく中国語の基礎を学びましょう	湯 麗敏	7
6	7月1日（土）	災害につよい家づくり	川本 聖一	5
7	7月1日（土）	災害と市民活動ー災害に備えて	尾畑 納子	5
8	9月2日（土）	動くって？運動の不思議を調べよう！	松山 友之	3
9	9月2日（土）	親子で遊ぼう！見て動いて楽しんで☆	石倉 卓子	3
合 計				50

(3) その他～サテライト・オフィスの市民への開放

下記の通り、平成29年12月時点で、過去3ヵ年の実績を上回る利用者を確保することが出来た。平成25年度を上回ることもほぼ確実視される状況にある。

富山市男女共同参画による講演会を実施した。また高校生の利用は、C i Cビル内に図書館施設ができたものの継続的な利用者数を維持している。

平成29年度CICサテライト利用状況(1/19現在)				28年度	27年度	26年度	25年度
月	高校生	一般	小計				
4	65	57	122	59	48	69	134
5	75	142	217	219	255	364	168
6	75	95	170	200	221	234	484
7	127	184	311	388	295	253	375
8	268	91	359	208	193	183	350
9	255	171	426	67	102	213	229
10	429	35	464	247	348	303	359
11	328	109	437	219	209	388	305
12	316	116	432	153	277	347	292
計	1938	1000	2938	137	111	165	275
				255	229	230	201
				183	103	98	189
				2335	2391	2847	3361

(注：平成29年度は、平成30年1月～3月を参入していない。)

《地域貢献》

1.高校出講プログラム				
■現代社会学部				
番号	名前	日付	依頼元	講義名等
	尾畑 納子	2017年12月15日	富山県立大門高等学校校長	富山県教育委員会の高大連携事業による特別授業
		2017年7月24日	富山県知事政策局長富山高等学校	平成29年度世界遺産人材育成プロジェクト(コースプログラム)
	上坂 博亨	2017年4月14日	富山県立氷見高等学校	エネルギーと人口問題
		2017年6月27日	公立大学法人福井県立大学	平成29年度福井県立大学公開講座
		2017年7月14日	富山県立上市高等学校	ヨーロッパに見る自然エネルギー活用
	大西 一成	2017年2月2日	石川県金沢商業高校	「大学で経済学を学ぶことの意義について」
	川本 聖一	2018年3月12日	富山国際大学付属高校	チームで強い「構造物」を造ろう(現代社会学部環境デザイン専攻の紹介)
	才田 春夫	2017年7月10日	富山県立上市高等学校	国際協力について考えよう～途上国で活躍する日本人
		2017年11月27日	星様国際高等学校富山学習センター長	微生物と人間のかかわり
		2018年1月30日	富山県立大門高等学校校長	課題研究発表会
	佐藤 悦夫	2017年4月14日	富山県立氷見高等学校	進学説明会(観光)
		2017年6月19日	石川県金沢商業高校	進学説明会(観光)
	助重 雄久	2017年7月26日	富山県立泊高等学校校長	交通の変化が富山県の観光や産業にもたらした影響を考えよう
	尾畑納子・助重雄久・伊藤 葵	2017年8月17日	富山国際大学現代社会学部主催	高校生向けフィールドワーク「黒部川扇状地の自然と生活環境を考える」
		2017年10月16日	公益財団法人北陸電力教育振興財団	八尾高等学校地域課題学習講演会「地域のさまざまな課題について考えよう」
		2017年10月24日	富山県立南砺福野高等学校校長	地域課題学習講演会・教員研修会「地域のさまざまな課題について考えよう」
	助重 雄久	2018年3月6日	富山県立南砺福野高等学校校長	地域課題学習発表会審査・講評
		2018年3月12日	富山県立大門高等学校校長	体験講座「デジタルマップを見ながら世界や富山を考えよう」
		2018年3月19日	富山県立泊高等学校校長	観光ビジネスコース実践発表会講評・講演「異なった観点から地域や観光を見直す」
		2017年5月12日	富山県立氷見高等学校	普通科文理探究コースの「探究」にかかわる招聘講座
	高橋 光幸	2017年9月19日	富山県立氷見高等学校	平成29年度普通科文理探究コース課題研究発表会
		2018年3月12日	富山国際大学付属高等学校	観光学の紹介講座
	湯 麗敏	2017年11月1日	富山県立泊高等学校	観光ビジネスコース「海外研修事前学習」
		2017年8月2日	富山県警察学校校長	富山県の経済について
	長尾 治明	2017年3月5日	富山県立新湊高等学校校長	平成29年度高大連携未来を拓く人材育成事業(特別授業)
		2017年12月14日	富山県高等学校商業研究クラブ	平成29年度富山県高等学校商業研究クラブ研究発表会
		2017年8月30日	富山第一高校校長	出張講座
	佐藤 勝秀	2017年12月11日	雄山高校校長	出張講座
		2017年10月30日	富山西高校	高校進路ガイダンス
	伊藤 葵	2017年12月13日	水橋高校	高校進路ガイダンス
		2018年3月12日	富山国際大学付属高校	高校進路ガイダンス

2.地域出講プログラム				
■現代社会学部				
番号	名前	日付	依頼元	講義名等
	尾畑 納子	2017年5月27日	富山県防災士会	設立10周年記念シンポジウム
		2017年8月6日	奈良女子大学同窓会富山支部	総会記念講演
		2017年8月26日	富山県世界遺産登録推進事業実行委員会	平成29年度世界遺産人材育成プロジェクト(コースプログラム)
		2017年8月26日	富山市教育委員会	富山市教師塾
		2017年9月21日	藤ノ木校下環境保健衛生協議会会長	藤ノ木校下環境保健衛生協議会研修会
		2017年9月29日、10月20、30日	県民カレッジ友の会「雷鳥会」	県民カレッジ連携講座「21世紀講座」①～③
		2017年10月26日	富山市教育委員会	市民大学「おいしい水のルーツを探る」
	大西 一成	2017年12月8日	現代社会学部経営情報専攻	富山国際大学現代社会学部経営情報専攻 地域連携講座「日本経済の現状と地域産業活性化策」
	大谷 孝行	2017年4月21日	富山県消費者協会	平成29年度富山県消費生活研究グループ連絡協議会総会講演会
		2017年5月13日	富山市男女共同参画推進センター	平成29年度男女共同参画サテライト講座
		2017年6月30日	富山市立五福小学校長上滝史子	富山市第6区域小学校教育研究会全体研修会講師
		2017年7月1日	消費生活研究グループ ひまわりグループ・交通安全母の会代表 尚和信子	平成29年度女性学級開級式 講演会
		2017年7月15日	千葉税経新人会	千葉税経新人会総会記念講演
		2017年7月23日	谷屋老友会会長	谷屋老友会「シルバー談話会」講演
		2017年8月31日	富山市子育てセンター	平成29年度「親学講座」
		2017年9月4日	熊野校下民生委員児童委員協議会	平成29年度南地区民生委員児童委員会研修会講演
		2017年10月5日	富山市子育て支援センター所長	平成29年度「孫育てセミナー」
		2017年11月5日	NPO法人生活の発見会富山集談会	富山集談会「一日学習会」講演
		2017年11月23日	免願寺	講演「現代社会における内親の意義」
		2018年2月15日	富山市地域精神保健福祉推進協議会	平成29年度心の健康づくり講座
		2018年2月16日	魚津地域精神保健福祉推進協議会長 富山県新川厚生センター魚津市所長	平成29年度魚津地域精神保健推進協議会研修会における講演
		2018年3月4日	室牧地区ふるさとづくり推進協議会	室牧地区公民講座
	才田 春夫	2017年7月20日	公益社団法人海外協力協会	2017年度青年研修「地域における観光振興」コースに係る講義等ジョブレポート発表会
		2017年7月21日	公益社団法人青年協力協会	2017年度青年研修「地域における観光振興」コースに係る講義等地域資源の活用について考える
		2017年8月1日	公益社団法人青年海外協力協会	2017年度青年研修「地域における観光振興」コースに係る講座等総括レポート発表会
	佐藤 悦夫	2017年8月23日	南砺市生涯学習スポーツ課	平成29年度「緑の里講座」(世界遺産研究の現状と課題)
	高橋 光幸	2017年7月21日	公益社団法人青年海外協力協会	2017年度青年研修「地域における観光振興」コースに係る講義等日本の観光政策の歴史と現状
		2017年8月1日	公益社団法人青年海外協力協会	2017年度青年研修「地域における観光振興」コースに係る講義等総括レポート発表会
		2017年10月13日	(株)JTBコーポレートセールス	平成29年度国際協力機構北陸支部課題別研修
	長尾 治明	2017年4月27日	富山県総合計画審議会	富山県総合計画審議会安心部会(第2回)9
		2017年6月7日	〈社福〉富山県社会福祉協議会	平成29年度富山県いきいき長寿大学すこやか活動講座
		2017年6月16日	〈社福〉富山県社会福祉協議会	平成29年度富山県いきいき長寿大学すこやか活動講座
		2017年10月19日	富山県総合計画審議会	第3回富山県総合計画審議会安心部会
		2017年10月16日	わんりんピック富山実行委員会	「わんりんピック富山2018実行委員会」第3回総務・企画専門委員会
		2017年11月1日	独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援部長	創業支援事業に係る模範開事業
		2017年11月24日	黒部市長	黒部市まちづくり交付金評価委員会
	秦野 るり子	2017年4月6日	読売新聞東京本社	第18回「報道と紙面を考える」懇談会
		2017年4月19日	北陸原子力懇談会	環境・エネルギー講演会(第二部)
		2017年4月21日、5月26日、6月23日、10月27日、11月2日、12月22日、2018年1月26日、2月23日、3月23日	〈公財〉フォーリン・プレスセンター	「今月の雑誌から(主要月刊誌の注目記事の抄訳)」編集会議
		2017年5月26日、6月23日、7月21日、8月25日、9月22日	〈公財〉フォーリン・プレスセンター	月刊誌記事選定のための編集会議

3. 行政に関わる組織、委員会、審議会等の理事・委員				
■現代社会学部				
番号	名前	期間	依頼元	委員会・役員名称等
	尾畑 納子	2017年6月7日	富山県知事	「協働事業補助金検討会」委員
		2017年6月1日～2018年2月27日	富山市環境未来都市推進協議会会長森雅志	富山市環境未来都市推進協議会委員
		2017年9月1日～2019年8月31日	北陸財務局長	国有財産北陸地方審議会委員
		2017年10月～	富山県総合政策局長	富山県男女共同参画審議会委員
		2016年5月～	富山市長	富山市教育委員
		2017年10月26日	富山県総合政策局長	富山県消費生活審議会委員
		2017年	富山県	富山県新総合計画審議会安心部会副会長
		2017年10月16日	富山県生活環境文化部	シアター・オリンピック富山2019実行委員会委員
		2015年5月～	富山県生活環境文化部	富山県消費者協会会長
		2017年8月～	氷見市	氷見市市街地グランドデザイン検討委員会委員
		2017年5月～	(一財)砂防・地すべり技術センター	(一財)砂防・地すべり技術センター理事
	上坂	2017年4月1日～2019年3月31日	富山高専専門学校	富山高専専門学校シニアフェロー
		2017年4月1日～2018年3月31日	富山県氷見市長	氷見市ホームページ検討委員会
		2017年6月13日～2022年3月31日	富山市環境未来都市「呉羽丘陵」チーム長呉羽丘陵での人と自然との共生&再エネフィールドミュージアム形成チーム委員	
		2017年6月15日～2022年3月31日	富山市環境未来都市推進協議会会長森雅志	再生可能エネルギーを活用した富山型農村活性化プロジェクト座長
		2017年6月15日～2019年6月14日	富山県経営管理部財政課長	富山県公共事業評価委員会委員
		2017年7月24日～2018年3月31日	福井県安全環境部環境政策課長	福井県水素ステーション整備検討委員会就任
	川本 聖一	1回	富山県職業能力開発協会	富山県技能検定 首席技能検定委員
	後藤 智	2018年2月21日～3月39日	富山労働局	若年者地域連携事業に関する技術審査委員会・委員長
		2018年3月1日～3月31日	富山労働局	地域若者サポートステーション事業に係る技術審査委員会・委員長
		2018年3月22日～3月29日	富山労働局	介護分野における人材確保のための雇用管理改善事業に関する技術審査委員会・委員長
	才田 春夫	2016年8月15日～2017年3月31日	独立行政法人国際協力機構	2016年度草の根技術協力事業(草の根協力支援型)選考委員
	助重 雄久	2017年4月～(継続)	富山県ボート協会会長	富山県ボート協会理事
		2017年5月25日～	滑川市教育センター所長	「シオパーク副読本(仮称)」新規作成委員会アドバイザー
		2017年7月4日～	黒部市教育長	地域観光ギャラリー展示変更検討委員会委員
		2017年9月15日～	入善町長	黒部川扇状地フィールドミュージアム基本計画策定に係る専門委員会委員
	高橋 哲郎	2017年4月4日～2019年3月31日	国立大学法人富山大学研究推進機構産学連携推進センターとやまびビジネスプランコンテスト事務局	とやまびビジネスプランコンテスト実行委員会委員(選出)
		2017年4月1日～2019年3月31日	国立大学法人富山大学研究推進機構産学連携推進センターとやまびビジネスプランコンテスト事務局	とやまびビジネスプランコンテスト実行委員会委員(委嘱依頼)
		2018年3月1日～2018年3月31日	富山労働局	平成30年度中小企業・小規模事業者等に対する働き方改革推進支援事業に係る技術審査委員会 委員長
		2018年3月1日～2018年3月31日	富山労働局	平成30年度医療労務管理支援事業に係る技術審査委員会 委員長
	高橋 光幸	2017年7月20日～2018年3月31日	富山県教育委員会	平成29年度高岡高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員
		2017年11月17日～2018年2月20日	南砺市	南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議委員長
		2017年10月23日～2018年3月31日	射水市	射水市観光振興計画策定委員会委員長
	長尾 治明	2017年4月1日～2019年3月31日	富山労働局	第53期富山地方最低賃金審議会公益代表委員
		委嘱の日～2018年3月31日	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支部	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支部創業支援事業計画認定評価委員会委員長
		委嘱の日～2018年3月31日	中部経済産業局	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支部創業支援事業計画認定評価委員会委員長
		委嘱の日～	富山県知事	「とやまの匠」認定に関する懇談会委員
		2017年10月13日～2年間	富山市長	富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議
		2017年10月24日～2年間	富山市長	富山広域連携中核都市圏ビジョン懇親会
		選任の日～2年間	滑川市長	滑川市行政改革懇談会委員
		2017年4月～2018年3月	(公財)フォー・プラスセンター	「今月の雑誌から(主要月刊誌の注目記事の抄訳)」編集委員
	佐藤 綾子	2017年4月1日～2018年3月31日	北陸地方整備局長	北陸地方整備局入札監視委員会委員
		2017年4月1日～2019年3月31日	内閣総理大臣	独立行政法人評価制度臨時委員会臨時委員
		2017年7月28日～	黒部市長	黒部市行政改革推進アドバイザー
		2017年10月12日～2018年3月31日	立山町長	立山町行政改革会議委員
		2017年10月16日～2019年10月15日	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構資産処分審議会委員
	高尾 哲康	2017年4月1日～2018年3月31日	情報処理学会北陸支部	情報処理学会北陸支部運営委員会
	高橋 ゆかり	2016年10月1日～2018年9月30日	富山県知事	富山県総合雪対策推進会議 委員
		2016年11月23日～2018年11月22日	富山県知事	富山県森林審議会 委員
		2017年8月1日～2019年7月31日	富山市長	富山市環境審議会 委員
		2018年2月28日～2020年2月27日	富山市長	富山市環境未来都市推進協議会 委員
	伊藤 葵	2017年8月18日～8月25日	南砺市長	南砺市公の施設指定管理候補者選定委員会委員
	ハブリー・ホクサン	2017年11月～2018年3月	伏木税関支署富山出張所	伏木税関支署に勤務する職員のためにロシア語の講座

4. 大学主催以外の講演会・シンポジウム・マスコミ関係行事の参加				
■現代社会学部				
番号	名前	日付	依頼元	講演会・行事名
	尾畑 結子	2017年4月20日	富山県防災士会	cityFM 出演 女性防災士・災害に備えて
		2017年5月27日	富山県防災士会	富山県防災士会設立10周年記念シンポジウム・パネリスト
		2017年9月16日	富山県	食品ロス削減のためのシンポジウム・パネリスト
		2018年2月3日	富山県消費研究グループ連絡協議会	平成30年度会員研究会
		2018年2月4日	小矢部市女性団体協議会	小矢部市長を囲む懇談会と講演会
	上坂 博亨	2017年6月27日	公立大学法人福井県立大学	平成29年度福井県立大学公開講座
		2017年8月10日	富山市教育委員会市民学習センター	富山市民大学
		2017年9月14日	とやま環境市民プラットフォーム準備委員会	とやま環境市民プラットフォーム準備委員会
		2017年9月15日	ターボ機械協会	第78回ターボ機械協会(富山) 講演会
		2017年10月12日	関西広域小水力利用推進協議会	富山県小水力発電所視察
		2017年10月12日	関西広域小水力利用推進協議会	富山県小水力発電所視察
		2017年12月8日	やまがた自然エネルギーネットワーク	第4回やまがた自然エネルギー学校
		2018年2月10日	富山地方自治研究センター	第2回地方自治研究センター勉強会
		2018年2月10日	富山市長森雅志	平成29年度男女共同参画サテライト講座
	大西 一成	2017年6月10日	富山市長森雅志	平成29年度男女共同参画サテライト講座
	大谷 孝行	2017年9月8日	大学コンソーシアム富山教育連携部会	大学コンソーシアム富山FD・SD研修会 司会
		2018年2月10日	ALL富山COC +	ALL富山COC + シンポジウム
	川本 聖一	2018年12月2日	エコテック/ロジー研究会	パネル展示
		2018年12月3日	エコテック/ロジー研究会	パネル展示
		2018年6月23日	富山テレビ放送	みんなのニュース「八尾町桐谷地区新しい「空家解体の取り組み」紹介
	才田 春夫	2016年9月25日	射水市射北中学校校長 川邊晃	地域防災とボランティア(仮)
		2016/9/21～10/25	公益社団法人青年海外協力協会中部支部	2016年度JICA北陸課題別研修事業 観光振興政策コース 講師
	助重 雄久	2017年8月10日	沖縄国際大学沖縄経済環境研究所長	第1回研究会講演「離島における観光の可能性と限界－宮古島の事例を中心として－」
	森野 るり子	2017年2月17日	富山県・日本海学推進機構	日本海学シンポジウム「いま日本海で起こっていること」パネリスト
	佐藤 綾子	2017年5月25日	都市監査委員会	平成29年度(第68回)北陸地区都市監査委員会定期総会 講演「地方自治体における財務書類の活用可能性」
	高橋 ゆかり	2017年11月21日	金沢大学環日本海域環境研究センター長	セミナー タイトル「子どもの室内空気汚染物質への曝露評価」
	ハブリー・ボクサン	2017年5月15日	富山県市民の会(Women's Wing Toyama)	「日本人と外国人が互いに持つ先入観について」

5. その他				
■現代社会学部				
番号	名前	日付	依頼元	活動名
	上坂 博亨	2018年2月10日	富山大学「地(知)の拠点」事業推進室	新たなインターンシップ報告会(平成29年度)
	大西 一成	2018年3月7日～17日	富山国際大学国際交流センター	郷土師範学院・大連海洋大学における日本語指導
	大谷 孝行	2016年4月1日～2018年3月31日	富山県バスケットボール協会	富山県バスケットボール協会理事(大学部門担当)・評議員
		2016年4月1日～2018年3月31日	北信越大学バスケットボール連盟	北信越大学バスケットボール連盟理事
		2016年4月1日～2018年3月31日	大学コンソーシアム富山	大学コンソーシアム富山教育連携部会委員
		2016年4月1日～2018年3月31日	ALL富山COC +	ALL富山COC + 教育プログラム開発委員会委員
		2017年4月1日～2018年3月31日	一般社団法人学修評価・教育開発協議会	一般社団法人学修評価・教育開発協議会企画調整委員
		2017年4月2日、6月4日、7月2日、8月6日、9月3日、10月1日、11月6日、12月3日、2018年1月7日、2月4日、3月4日	NPO法人「生活の発見会」	富山集談会の運営及び司会
		2017年7月17日	富山県バスケットボール協会	富山県学連審判講習会
		2017年7月18日	富山国際大学 大谷孝行	イタイタイ病関係者への聞き書き冊子贈呈(NHK放映、北日本新聞掲載)
		2017年9月16日、9月17日	富山県バスケットボール協会	第93回天皇杯・第94回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会運営補助
		2017年10月21日	とやま環境フェア開催委員会	とやま環境フェア「富山国際大学」ブース運営補助
		2017年12月2、3日	特定非営利活動法人エコテック/ロジー研究会	全国エコテック/ロジー研究会運営補助
		2018年2月18日	富山県バスケットボール協会	龍球懇話会
		2017年10月21日	とやま環境フェア	パネル展示
	川本 聖一	2017年10月22日	とやま環境フェア	パネル展示
		2017年6月4日	森づくり	森づくりイベント
	後藤 智	2017年度		富山県自治体問題研究所理事長として、地方自治の実現をめざす、各種学習・研究活動、講演会を実施。例として、〔公開学習会〕「公共施設再編の動きにどう対応するか」(講師:角田英昭、県政会館、2017年11月11日)、「実践的「自治体財政学習会」」「自分の目と手で自治体財政を診てみよう」(講師:初村尤嗣氏、小矢部老人福祉センター・寿永荘、2018年2月17日)
	佐藤 悦夫	2018年1月9、16、23、30日、2月6日	北日本新聞	とやまゼミナール、メキシコの世界遺産 テオティワカン遺跡①～⑤
	森野 るり子	2017年4月～2018年3月	日本記者クラブ	会報COMニスト
	佐藤 勝秀	2017年7月15日	国連NGO世界平和女性連合	女子留学生弁論大会遊覧大会審査員長
	高橋 ゆかり	要職の日～2018年3月31日	金沢大学環日本海域環境研究センター	金沢大学環日本海域環境研究センター 教育関係共同利用拠点運営委員会委員
	ハブリー・ボクサン	2017年11月12日	とやま国際センター	第11回富山県ロシア語スピーチコンテスト

2. 課題

《地域交流》

- (1) 平成 30 年度は、市民になじみ深い「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」の拡充によってより一層、参加者の拡大を図ることが求められよう。そのために、各学部の教員の持ち回りによって、講座に多様性を持たせることが求められる。隣接する会場においても、競合する講演会等が開催されており、より一層の新たな工夫も求められる状況にある。
- (2) 平成 27 年度の「エクステンション・カレッジ特別講演会」については、近年確実に定着しつつあるも、人選において、今後とも地元にはゆかりのある現在活躍中の講演者を招聘することが肝要であると考ええる。
- (3) 学内の連携による他の行事によるサテライト・オフィスの利用拡大が求められる。また、本学が主催して、学外の団体、機関との共同による利用も促進する必要がある。
- (4) サテライト・オフィス全体の利用者数の増加を目指すことが求められよう。新年度の目標として年間 3500 名以上の利用者数を目指したい。

《地域貢献》

- (1) 教員、学生の地域貢献は、様々な形で実施している。例えば出前講座、地域イベントへの企画や参加、テレビ・ラジオ・新聞紙上出演、審議会等の委員などである。これらが長い目での入学者増につながり、地域で必要不可欠の「知の拠点」大学として生き残るには、一部の教員に偏るのではなく、幅広い教員が適材適所で活躍できることであり、そのためにはコーディネーターの存在も必要である。
- (2) 今後はあらゆる媒体を活用し地域に向けた発信力を強化することが必要である。

富山国際大学 エクステンション・カレッジ 特別講演

テーマ 富山—水からはじまる物語

立山には限りもった水であり、水になり、川となり、海に流れ、水は水となり、空に蒸はれ雲になり、再び水雲を降らせる…
この水雲から降り、たれてきた「水の循環」をテーマに、
立山人が山に何を求めたか、世界でも稀な自然土の中で育ってきたのか、
人々は何万年を亘りてか、

日 時 2017年 9月9日(土)
13:30 ~ 15:00 (受付13:00 ~)

場 所 富山国際学園サテライト・オフィス
富山駅前Cicビル3階(富山県富山市新富町1-2-3) ※311系酒税店をご利用ください。

定員
先着80名

受講料
無料

事前にお申込みください
定員に達し次第締め切ります

講師 高橋 敬市 氏

●プロフィール

1950年 高知生まれ
1971年 立山・剱前小屋に勤務
1982年 写真家として独立
1986年 カナダに移住、取材撮影活動
1989年 立山山麓芦花寺に移住
1990年 写真ギャラリー「NATUR」開設
その後、山岳雑誌「山と溪谷」、「山人」などに山岳写真を数多く発表
写真集「北陸の霊峰 立山・白山」(東京新聞出版局)、「立山杉」(北日本新聞社)など多数
毎年、各地で写真展を開催
日本写真家協会会員



●プログラム

13:30~13:35 挨拶 富山国際大学 学長 中島孝一
13:35~13:40 講師紹介
13:40~14:55 講演
14:55~15:00 エクステンション・カレッジの案内 他

主催/富山国際大学エクステンション・カレッジ 後援/富山県教育委員会・富山市・(公財)富山県ひとづくり財団

12. 入試対策

1. 実績・現状

(1) 平成 29 年度学生募集活動の基本方針

- 1) 入学定員の確保…平成 29 年度の入学者は前年比 14 名増の 108 名(定員充足率 90.0%)まで回復したが、なおも定員を充足していないことから、定員確保に全力をあげる。
- 2) 歩留率の安定化…平成 28 年度は入試全体の歩留率が 59.7%に上昇したが、この比率は過去の実績からみて過大であるため、平成 29 年度の予想歩留率は 55～58%と想定する。歩留率の安定化策としては、高校生や保護者に直接アピールできるような広報活動(DM や各種説明会での学部説明チラシ配布、模擬授業の実施等)を行う。
- 3) 入学生の質向上…平成 26、27 年度に合格基準を下げて「底ざらい」を行ったことが高校や保護者の不信感を招いたことから、定員確保に留意しつつも、学力等が大学生に相応しい水準に満たない受験生は不合格とし、入学生の質の向上を目指す。
- 4) 留学生の合否判定の厳格化…平成 26 年度入学した留学生の多くが留年・退学したことをふまえ、留学生の合否判定はより厳正かつ慎重に行う。とくに入学後に日本語力向上が見込めないと考えられる受験生は不合格とする。

表1 入試状況の推移(平成20～30年度入試)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入学定員(人)	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
志願者数(人)	215	187	207	169	172	156	196	215	201	198	237
受験者数(人)	214	186	204	165	171	156	195	215	198	198	237
合格者数(人)	187	158	181	153	162	149	193	209	189	181	227
不合格者数(人)	27	28	23	12	9	7	2	6	9	17	10
入学者数(人)	132	119	136	104	105	98	110	116	94	108	127
県内入学者数				78	81	60	83	99	72	85	101
県内比率	—	—	—	75.0	77.1	61.2	75.5	85.3	76.6	78.7	79.5
定員充足率(%)	110.0	99.2	113.3	86.7	87.5	81.7	91.7	96.7	78.3	90.0	105.8
歩留率(%)	70.6	75.3	75.1	68.0	64.8	65.8	57.0	55.5	49.7	59.7	55.9
合格率(%)	87.4	84.9	88.7	92.7	94.7	95.5	99.0	97.2	95.5	91.4	95.8

表2 入試形態別入学者数

受験区分		年度				増減(d-c)
		a.H27	b.H28	c.H29	d.H30	
推薦入試	(Ⅰ期)指定校制	17	14	16	18	2
	(Ⅰ期)公募制一般型専願	11	8	9	12	3
	(Ⅰ期)公募制一般型併願	3	2	0	1	1
	(Ⅰ期)公募制諸活動型併願	16	16	15	27	12
	(Ⅱ期)公募制一般型専願	5	6	3	4	1
	(Ⅱ期)公募制諸活動型専願	6	3	1	3	2
	計	58	49	44	65	21
AO入試		1	3	5	3	-2
一般・特奨・センター	一般入試(前期)	24	20	34	27	-7
	一般入試(後期)	3	3	4	5	1
	特別奨学生選抜入試(前期)	5	2	2	2	0
	特別奨学生選抜入試(後期)	3	2	1	1	0
	大学入試センター試験利用型入試(前期)	12	7	6	14	8
	大学入試センター試験利用型入試(中期)	2	0	1	3	2
	大学入試センター試験利用型入試(後期)	0	2	2	1	-1
	計	49	36	50	53	3
留学生	外国人留学生(Ⅰ期)	3	0	1	1	0
	外国人留学生(Ⅱ期)	1	1	3	1	-2
	海外協定校	3	5	4	2	-2
	日本語学校協定校	1	0	1	2	1
	計	8	6	9	6	-3
合計		116	94	108	127	19

(2) 平成 30 年度入試結果全般(表 1)

- 1) 基本方針に示した取り組みを昨年度から継続的に実施した結果、入学者は 127 名となり、8 年ぶりに入学定員を満たすことができた。志願者が現代社会学部創設以来最多の 237 名となったことが、定員確保に結びついた最大の要因といえる。
- 2) 歩留率は 55.9%で前年度比 3.8%低下したが、想定範囲内にとどまった。高校生や保護者に直接アピールするため、①進学説明会では学内外で積極的に活動している学生を登用し、入学動機や学生生活について率直に話してもらったこと、②オープンキャンパスの際に各高校の先輩の活躍を伝えるポスターを貼ったこと、③一般・特奨・センター入試の合格通知に学部長の挨拶と学生の活躍を伝えるダイレクトメールを同封したことなどが、歩留率確保に結びついたと考えられる。
- 3) 不合格者は表 1 の数値上では 10 名(4.4%)にとどまったが、この数値には第 2 志望合格者(子ども育成学部不合格)の数値が含まれおり、実質的には受験者 237 名中 27 名(11.4%)を不合格とした。大学の授業についていけないと判断した受験生を不合格にしたことで、学生の質保証に向けた取り組みもある程度達成することができた。
- 4) 留学生に関してはここ数年受験者が減少傾向にあり、平成 30 年度入試(新入学生)では 7 名になったが、勉学意欲が高い受験生ばかりであったため全員を合格とした。

(3) 入試形態別入試結果(表 2)

- 1) 推薦入試は定員 55 名に対し入学者は 65 名で、前年比 21 名増となった。とくに I 期の諸活動型併願が 12 名増となったことが、定員確保に大きく寄与した。
- 2) AO 入試は、定員 5 名に対し入学者は 3 名で、前年比 2 名減となった。
- 3) 一般入試での入学者は前・後期合わせて 6 名減となった。一方、センター入試は前・中・後期を合わせて 9 名増となった。原因としては①併願者が多い近隣大学と一般入試の日程が重なったこと、②本学の一般・センター入試の合格発表が同日であったことなどから、一般入試受験者の一部がセンター試験にシフトしたことが考えられる。
- 4) 特別奨学生選抜入試での入学者は 3 名で、前年と同数であった。
- 5) 留学生については 6 名が入学したが、うち 3 名がベトナム人留学生であり、中国からの新入学生はわずか 3 名となった(編入学生を除く)。

(4) 出身高校別入試結果(表 3)

- 1) 県内高校からの入学生は 101 名で、平成 23 年度以降では最多となった。

表3 出身高校別入学者数

地域	高校名等	H27	H28	H29	H30	地域	高校名等	H27	H28	H29	H30
県東部・県立	泊	1	3	2	0	県西部・県立	小杉	3	2	2	4
	入善	3	2	2	0		新湊	2	1	4	1
	桜井	1	1	2	0		大門	2	0	0	1
	新川みどり野	1	1	0	0		志貴野	0	0	1	0
	魚津	0	0	0	1		高岡南	0	0	0	2
	滑川	3	3	4	4		高岡商業	1	1	3	2
	上市	3	3	5	2		高岡西	3	1	1	2
	雄山	7	6	6	7		高岡工芸	1	0	0	0
	小計	19	19	21	14		伏木	0	1	0	1
富山市・県立	水橋	3	0	3	4	福岡	0	1	1	0	
	富山工業	3	1	2	4	南砺福野	2	5	0	0	
	富山いずみ	4	0	4	2	南砺福光	1	1	0	2	
	富山	1	1	1	1	南砺平	0	0	1	0	
	富山商業	10	8	3	5	氷見	4	1	2	1	
	富山西	6	2	4	6	小計	19	14	15	16	
	富山東	0	1	1	2	県内私立	新川	2	1	0	2
	富山北部	1	2	3	5		富山第一	0	4	5	4
	富山南	5	3	2	2		高朋	1	0	0	2
	雄峰	2	0	1	6		龍谷富山	1	1	0	3
	中央農業	0	0	2	0		富山国際大付	11	8	9	16
	呉羽	0	1	2	3		高岡向陵	0	1	1	0
	八尾	10	5	4	4		高岡第一	1	0	1	0
	小計	45	24	32	44		高岡龍谷	0	0	1	0
						小計	16	15	17	27	
						県外	7	16	10	19	
						単位制高校・高卒認定	2	0	4	1	
						留学生	8	6	9	6	
						計	116	94	108	127	

- 2) 県東部の県立高校からの入学者は、前年度比 7 名減の 14 名となった。とくに、黒部市以東の高校からは入学者がいなかった。
- 3) 富山市の県立高校からの入学者は、前年度比 12 名増の 44 名となり、ほぼ平成 27 年度の水準まで回復した。
- 4) 県西部の県立高校からの入学者は前年度比 1 名増の 16 名で、この 3 年間は微増が続いているが、年によって入学者数の変動が大きい高校が目立つ。
- 5) 県内私立高校からの入学者は前年度比 10 名増の 27 名となった。とくに付属高校からの入学者は前年比 7 名増となっており、高大連携の強化を図ってきた成果が現れてきているといえる。

2. 課 題

(1) 高校生・保護者の関心に合わせた広報活動の展開

- 1) 平成 28 年度以降、入学生の関心は明らかに国際化や留学に傾きつつあるので、海外研修や留学体験の大切さをアピールすることを広報活動の主軸とする必要がある。
- 2) 平成 30 年度入試では、英検 2 級・準 2 級合格者の受験が急増したが、英語国際キャリア専攻希望者は 7 名にとどまった。原因としては留学費用の高さや PR 不足等が考えられる。とくに高校や新入学生からは「どんな教員がおられ、どんな教育研究実績をお持ちなのか分からない」、「キャリア、すなわち出口の説明が不明確」といった声が多く聞かれる。平成 31 年度入試に向けては学生に対する教育内容、教員の教育研究状況、出口戦略を明確に示していくことが大きな課題となる。
- 3) 一方で、中国語・韓国語の履修者は増加傾向にあり、中国・韓国への留学や海外研修参加を考えている学生も増えている。多くの県内有力企業がアジアに進出していること、インバウンドで県内を訪れる旅行者の大部分が中国語圏や韓国から訪れていることを考えると、中国語・韓国語のニーズが高まるのは当然である。授業や現地研修、留学等を通して中国語や韓国語力を高められる点を、高校生や保護者にアピールしていくことが重要な課題となる。

(2) 高校生や保護者に直接アピールの充実

- 1) 高校生・保護者向けの紙媒体を一層充実させ、すぐれた授業の内容や教員の研究等についても知ってもらおう。
- 2) 進学説明会においては、在学生の成長ぶりが高校生・保護者に伝わるような企画を充実させる。
- 3) 高校生向けの現地研修会(フィールドワーク)や留学等の成果発表会等を企画し、学生の取り組みが高校生・保護者に伝わるよう工夫する。

(3) 重点校対策

- 1) 毎年入学者を送って下さる高校には、在学生の近況等を細かに伝える。
- 2) 高校、とくに入学者が伸び悩んでいる県東部の高校において、在学生の活躍等を高校に細かに伝えたり、説明会や模擬授業等に専門分野の教員を派遣したりすることで、志願者増を目指す。

(4) アジア圏全体からの留学生確保

- 1) 留学生に関してはこれまで中国を中心に受け入れてきたが、中国からの留学生は減少傾向にある。また中国人留学生は勉学意欲の差が大きく、留年や退学するケースも増えてきた。中国人留学生については厳格な合否判定を実施し、本当に勉学意欲がある留学生のみを受け入れるよう配慮していく。
- 2) 近年、ネパールやベトナムからの留学生も入学しており、比較的勉学意欲が高い。日本学生の交流の幅を広げる意味でも、アジア圏全体からの留学生受け入れを目指していく。

13. 広報活動

1. 実績・現状

ここでは、入試関連の広報を除き、教員・職員による広報活動について示す。

(1) ホームページ

表 13-1 ホームページへのアクセス件数

年度	年間アクセス件数 (注)	一日平均件数	増減率 (前年比)
2013 年度	約 433 万件	約 11,800 件	
2014 年度	約 490 万件	約 13,400 件	約 13%増
2015 年度	約 467 万件	約 12,800 件	約 5%減
2016 年度	約 473 万件	約 13,000 件	微増
2017 年度	約 505 万件	約 13,800 件	約 7%増

(注) 画像、PDF ファイル等を含む

表 13-2 ニュース&イベントへの投稿件数 (上段：実数)

年度	大学計	現代社会学部	子ども育成学部	各センター等
2013 年度				
2014 年度	285	95	88	102
2015 年度	235	79	75	81
2016 年度	210	75	65	70
2017 年度	190	84	39	67

表 13-3 ホームページの更新

年度	更新内容
2013 年度	2012 年末に大学ホームページをリニューアル 3 専攻のホームページデザインを統一化 産業界 G P のホームページを作成 各専攻の話題や注目情報・ニュースなどを追加 シラバス、教員紹介、紀要データなどを更新・追加
2014 年度	専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。
2015 年度	各専攻のページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみ。
2016 年度	各専攻・各センターのページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみであった。
2017 年度	各専攻・各部署のページ、カリキュラム、教員紹介、紀要データなどの更新。 2018 年度開設の新専攻 (英語国際キャリア) のページを追加。 シラバスは別サーバに移転。

- ・ 東黒牧ニュースの発行件数

2014 年度：19 件

2015 年度：32 件

2016 年度： 9 件

2017 年度： 4 件

英語でのニュースの発信

2017 年度： 7 件

(2) 新聞

表 13-4 現代社会学部に関する記事掲載件数

年度	件数	備考
2013 年度	89	13年6月～14年3月17日。すべての新聞が対象。
2014 年度	121	14年3月17日～15年3月19日。すべての新聞が対象。
2015 年度	118	15年3月23日～16年3月15日。すべての新聞が対象。
2016 年度		
2017 年度		

2. 課題

ホームページに関して、サーバシステムは導入後 7 年を経過しており、障害やトラブルが起こりやすくなってきている。来年度以降のリプレースを検討していく必要がある。

また、広報戦略の一環としての大学全体および学部の広報活動の推進や自己点検活動の効率化を推進していくことが求められる。

14. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

学会発表は、昨年度(28年度)は8件であったが、今年度は学会発表23件(うち7件はエコテクノロジーシンポジウムでの発表)と件数が昨年度の約3倍であった。学生との共同研究による発表も複数あり、研究と教育が一体となって推進されているといえる。一方、論文投稿については、昨年度(28年度)は6報であったのに対し、今年度は2報にとどまった。

(1) 学会発表

- Hiroyuki UESAKA, Hasina RAJBAHAK, Hinako AKIMOTO (2018) Study of Energy Consumption and Potential of Energy Autonomy in a Depopulated Community in Toyama Prefecture, 12th International Forum on Eco-technology (IFE12), Hawaii (2018/1/22-24)
- Ayami NAKAGAWA, Hiroyuki UESAKA, Kazushige OHNISHI (2018) Study of Regional Energy Utilization Managed by the Citizens in a Region in Denmark: Focus on the Investment System for Wind Power Business, 12th International Forum on Eco-technology (IFE12), Hawaii (2018/1/22-24)
- 飴谷功佑, 清水貴明, 中川信二, 上坂博亨, 伊藤宗康, 佐藤弘規 (2017) OpenFOAM によるたらい式水車の木駅混相流解析(容器内渦流のシミュレーションと実験)、日本機械学会北陸信越支部学生会第46回学生員卒業研究発表講演会、PS3-39 (2017/3/8)
- Kosuke Ametani, Takaaki Shimizu, Shinji Nakagawa, Hiroyuki Uesaka, Hiroki Sato, Muneyasu Ito (2017) Fundamental Study on Air-Water Multiphase Flow in Tub-Type Water Wheel Vessel (Experiment and Simulation using OpenFOAM), The 9th JSME-KSME Thermal and Fluids Engineering Conference (TFEC9), TFEC9-1314 (2017/10/30)
- 飴谷功佑, 中川信二, 清家美保, 上坂博亨, (2017) 小水力発電用低回転ボルテックス水車ケーシング内における空気・水2相流の流動シミュレーション, エコテクノロジーシンポジウム(富山), p. p. 18 (2017/12/3)
- ラズバハク・ホシナ, 上坂博亨 (2017) 黒部市音谷川の流量調査と年間発電量予測, エコテクノロジーシンポジウム(富山), p. p. 19 (2017/12/3)
- 中川采美, 上坂博亨 (2017) デンマークの陸上風力発電事業に見る経済的公平性を重視した住民参加型地域資源マネジメントに関する研究, エコテクノロジーシンポジウム(富山), p. p. 32 (2017/12/3)
- 川本聖一 (2017), 中山間地における空家解体費用の分析, エコテクノロジーシンポジウム(富山), (2017/12/3)
- 川本聖一 (2017), 北陸3県の住宅供給企業, 2017年度日本建築学会大会, 広島工業大学, (2017/8/31)
- 新村真由, 大角萌乃, 河合海, 才田春夫 (2017) タイ・ムラブリ族児童の食と健康に関する調査研究, エコテクノロジーシンポジウム(富山), (2017/12/3)
- 才田春夫 (2017) 狩猟採集から定住移行期における経済的自立支援—タイ・ムラブリ族を対象として—平成29年度富山第一銀行奨学財団研究助成セミナー研究成果発表会(2017/7/7)
- Sato Etsuo, Mariela Perez, y Saburo Sugiyama (2017) Análisis de Cerámica de la Pirámide de la Luna en Teotihuacán, México, 6a. Mesa Redonda de Teotihuacán(Mexico), 16 de

Noviembre-18de Noviembre, 2017

- 助重雄久 (2018) 離島観光の振興とその限界—宮古島を事例として—, 日本地理学会 2018 年春季学術大会離島地域研究グループ研究集会, 東京学芸大学, (2018/3/23)
- 佐藤綾子 (2017) 地方議会の意思決定に有用な財務報告モデルの検討—事業別財務諸表の活用と課題、国際公会計学会第 20 回全国大会、神戸学院大学、(2017/8/29)
- 高尾哲康 (2017) 学生証 IC カードを活用した授業支援, 情報科学技術フォーラム, 東京大学(2017/9/12-14)
- Yukari TAKAHASHI, Qi WANG, Minori FURUKAWA, Yuichi MIYAKE and Takashi AMAGAI (2018) Exposure Assessment to Aldehydes and Organophosphorus Compounds on Kindergarteners, 12th International Forum on Eco-technology (IFE12), Hawaii (2018/1/22-24)
- 高橋ゆかり, 王齊, 雨谷敬史 (2017) 富山市とその周辺地域におけるアルデヒドによる室内外汚染実態調査, エコテクノロジーシンポジウム (富山) (2017/12/3)
- 山崎豊, 高橋ゆかり (2017) 富山市の砂浜におけるマイクロプラスチックの現状, エコテクノロジーシンポジウム (富山) (2017/12/3)
- 高橋ゆかり, 王 齊, 雨谷敬史, 末永美雪 (2017) 幼稚園・保育園における幼児のアルデヒドへの曝露評価, 第 26 回環境化学討論会(2017/6/7-9)
- 高橋ゆかり, 李 剛, 石倉卓子, 末永美雪 (2017) 保育園および幼稚園における室内外浮遊真菌の実態調査, こども環境学会 2017 年大会 (北海道) (2017/5/26-27)
- 伊藤葵 (2017) 「非営利セクターにおける中間支援組織の重要性」 非営利法人研究学会関東部会、日本大学(2017/7/8)
- パブリー・ボグダン, ルイス・ジョナサン (2017) ウクライナのツイッター利用者の特徴——地理的な位置・ジェンダー・言語選択, 第 38 回ウクライナ研究会, 東京, 早稲田大学(2017/12/2)
- パブリー・ボグダン (2017) 複数言語使用国のバイリンガリズム問題の実証的な研究の中間結果: 言語とジェンダーの面から, 言語文化学会第 31 回大会, 大阪, 関西医学大学(2017/5/24)

(2) 論文発表

- 助重雄久・富山国際大学山代・山中温泉観光調査グループ (2017) 山代・山中温泉における観光の現況と課題, 自然と社会—北陸—, 83, 1-12 【査読無】
- PAVLIY, B., LEWIS, J. (2017) Analyzing Actual Language Use in Ukraine Using Social Media Data: Gender, Location and Language, Eurasia Cultura, Vol.3, pp.89-102 【査読有】

(3) その他

- 秦野るり子 (2017) 異次元の 14 歳、日本記者クラブ会報、569 号、p 22
- 秦野るり子 (2017) 揺らぐ”最後の砦、日本記者クラブ会報、573 号、p 24
- 秦野るり子 (2017) 霊峰に挑む表現者、日本記者クラブ会報、577 号、p 26

2. 紀要執筆状況

今年度は論文 10 編、研究ノート 1 編が投稿された。昨年度(28 年度)の論文 10 編、研究ノート 5 編と比較すると、研究ノートの数は減ったが論文数は同数であった。

<論文>

- 伊藤雄馬：TOEIC 学習のための授業内アクティビティの開発（1）－ Part 1・2 を用いた文法指導－，10(1)，pp. 1-7
- 川本聖一：住宅の面積に影響を与える社会的要因に関する研究，10(1)，pp. 9-24
- 才田春夫、伊藤雄馬：狩猟採集遊動生活から定住生活への移行期におけるムラブリ支援活動の評価，10(1)，pp. 25-32
- 高橋光幸：観光資源の保護と利用に関する概念と取り組みの考察，10(1)，pp. 33-58
- 大谷孝行：川柳における自己対象化と自己相対化～逆境を生き抜く知恵～，10(2)，pp. 1-14
- 大西一成：デンマークの“Flexicurity”に見る有機的な雇用政策がもたらす「生産性向上」に関する実証分析～農地相続制度、“DAAS”等を具体的事例として～，10(2)，pp. 15-33
- 佐藤綾子：地方自治体における財務報告の有用性，10(2)，pp. 35-48
- 高尾哲康：学生証 IC カードを利用した授業支援－モバイル連携－，10(2)，pp. 49-56
- 高橋ゆかり：こども園の室内における温湿度および二酸化炭素濃度，10(2)，pp. 57-63
- 黄桂峰：中日伝統文化の比較研究－その大陸性と海洋性の相違点を中心に－，10(2)，pp. 65-75

<研究ノート>

- 川本聖一（2018）：中山間地における空家解体費用低減策の提案，10(2)，pp. 77-82

3. 競争的資金等による採択研究の概要

（1）科学研究費助成事業

<研究代表者>

- 上坂博亨：高耐塵性・低環境負荷な低回転ボルテックス水車の動作解析と設計指針の開発
- 佐藤綾子：地方議会の意思決定に有用な財務報告に関する研究
- 高橋ゆかり：子どもの室内空気汚染物質への曝露評価および健康リスク低減に向けての提案

<研究分担者>

- 佐藤悦夫：愛知県立大学
- 佐藤綾子：明治大学

（2）富山県ひとづくり財団

- 尾畑納子：平成 29 年度 富山国際大学 現代社会学部経営情報専攻 地域連携講座「地域産業資源の活用と経済発展 ～ 地域産業資源の有効活用と地域課題解決 ～」（3 号）（公開講座の開催に対する助成）
- 佐藤勝英：富山県の宿泊施設におけるインバウンド対策の現状と課題（5 号イ）（地域課題の解決
- に取り組む研究）

（3）富山第一銀行奨学財団

- 秦野るり子：（中国政府公認の“カトリック教会”、「中国天主教愛国会」と信者の現状、及

びバチカンが中国に対し外交関係樹立を迫っていることの影響について)

- 川本聖一：(中山間地における空家解体方法と資材利用に関する研究)
- 大西一成：(海外直接投資を行う企業に見る生産性の変化に関する研究)

4. 評価と課題

学会発表の件数は23件であり、27年度の14件、28年度の8件と比較して大幅に増加した。これらの発表には、学生や卒業生と教員が共同で研究した成果も複数含まれていたことから、学生の卒業研究などにおいて、学会で発表できる成果が複数あったといえる。しかしながら、査読あり論文が1件にとどまったことから、今後、査読あり論文に積極的に投稿していくことが課題であるといえる。29年度の学会発表数が増加したことから、これらを論文にまとめて投稿することにより、論文数が増える可能性があると考えられる。

また、科研費採択件数についても、本学部の28年度新規採択はゼロ件、29年度は1件(常勤の教員に関してはゼロ件)であり27年度から継続している3件が実質的に動いている研究課題である。また、29年度の現代社会学部の教員の科研費への応募は、基盤研究B(一般)1件、基盤研究C(一般)6件、若手研究1件であった。

以上のように、対外的な学術雑誌への投稿や外部資金獲得の状況が低調になっていることは、研究推進に関するエフォートが低下せざるを得ない状況になっているといえる。教育の質の向上のためには、大学における研究活動は不可欠であることから、教員が研究計画の立案や研究の推進のための時間を確保できるような工夫をしていく必要がある。このために、教員の研究日の確保のほか、優先度の低い学内業務や時代に合わなくなった業務の見直し、大学イベントのための教員の休日動員を必要最小限に抑えるといった対策をとっていくことも重要であると考えられる。

15. 後援会・保護者対応

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

後援会総会への申込者数は2015年度に特に減少したが、2016年度、2017年度と申込者数は大きく増加し、大学の取組みに対して保護者がより高い関心をもっていることが伺える。

表 16-1 理事会・総会の実施内容

年度	理事会	総会
2014 年度	平成 26 年 5 月 24 日（土）10：30 東黒牧キャンパス大会議室 出席者数（理事）19 名	平成 26 年 6 月 21 日（土）14：30 オークス・カナルパーク・ホテル 申込者数 71 名
2015 年度	平成 27 年 6 月 27 日（土） オークス・カナルパーク・ホテル 出席者数（理事）20 名	平成 27 年 6 月 27 日（土） オークス・カナルパーク・ホテル 申込者数 42 名
2016 年度	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）18 名	平成 28 年 6 月 25 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 84 名
2017 年度	平成 29 年 6 月 24 日（土） ホテルグランテラス富山 出席者数（理事）15 名	平成 29 年 6 月 24 日（土） ホテルグランテラス富山 申込者数 120 名

(2) 保護者懇談会

保護者懇談会への申込者数はここ数年、前期・後期ともに 40 名前後で推移していたが、2016 年度は後期（大学祭時）の懇談会に多くの申込者があり、2017 年度も前期・後期とも 50 名の申込者があった。大学祭という行事に対しても、保護者の関心が向けられていることが予想される。

表 16-2 実施内容

年度	前期	後期
2014 年度	後援会総会時（6 月 21 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 36 名	大学祭時（10 月 25 日・26 日）に実 施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 34 名
2015 年度	後援会総会時（6 月 27 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 49 名	大学祭時（10 月 24 日・25 日）に実 施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 39 名
2016 年度	後援会総会時（6 月 25 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 36 名	大学祭時（10 月 29 日・30 日）に実 施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 51 名

2017 年度	後援会総会時（6 月 24 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 51 名	大学祭時（10 月 28 日・29 日）に実 施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 50 名
---------	--	--

（３）同窓会

2014 年度まで毎年 15 名程度の卒業生の出席であり、2015 年度以降は 22 名に増加したものの、卒業生の大幅な出席数増には至っていない。

表 16－3 実施内容

年度	内容
2014 年度	平成 26 年 8 月 2 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 20 回総会および懇親会 出席者数 計 45 名 卒業生 15 名（人文 2、地域 1、現代社会 6、子ども育成 6）、 教育職員 20 名（学長、現代社会 9、子ども育成 10）、事務職員 5 名 同窓会役員 5 名
2015 年度	平成 27 年 8 月 8 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 21 回総会および懇親会 出席者数 計 42 名 卒業生 22 名（人文 11、人文社会 1、地域 4、現代社会 5、子ども育成 1） 教育職員 14 名（学長、現代社会 7、子ども育成 5）、事務職員 1 名 同窓会役員 5 名
2016 年度	平成 28 年 8 月 27 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 22 回総会および懇親会 出席者数 計 40 名 卒業生 22 名（人文 7、人文社会 3、地域 3、現代社会 5、子ども育成 2、 不明 1） 教育職員 11 名（学長、現代社会 5、子ども育成 5）、事務職員 2 名 同窓会役員 5 名
2017 年度	平成 29 年 8 月 26 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 23 回総会および懇親会 出席者数 計 43 名 卒業生 22 名（人文 16、人文社会 1、地域 1、現代社会 4） 教育職員 14 名（大学長、短期大学長、現代社会 6、子ども育成 6） 事務職員 2 名 同窓会役員 5 名

2. 課題

（１）参加保護者との連携強化と情報伝達

後援会総会や保護者懇談会に参加する保護者数は着実に増えているので、教職員と保護者との対話・連携強化を今後とも持続する。出席された保護者に対しては、大学の頑張っている取組みを中心とした活動内容をしっかり伝達する。

(2) 同窓会出席者の増加

同窓会への卒業生の出席増加を図るために、開催案内の内容に出席教員名などを記載して、出席してみたいとなる情報を盛り込む。また、キャリア支援センターとも連携しながら、職場で一定のポストに就いている卒業生の参加増を図り、本学学生の就職につなげる工夫をする。

15. 文部科学省平成 29 年度認定事業「地(知)の拠点大学」

平成 27 年度に文部科学省の認定を受けて以来、3 年目の取組みになり、本学はオール富山 COC+ 参加校として、また本学独自の「地(知)の拠点大学(COC)」事業として、平成 29 年度は主に、以下のような取組みを行った。

1. COC+参加校としての取組み事業内容

(1) 能力特性評価テストのデータ収集と分析データの効果的な活用法の検討

- ①富山国際大学現代社会学部・子ども育成学部の 1～4 年生のデータ収集：838 人中 708 人（回収率 84.4%）
- ②個人別能力特性別レーダ・チャートの作成とその活用法の検討
- ③GPA 得点と課題解決力得点の相関図の作成とその活用法の検討

(2) 課題解決（分離融合）型インターンシップの実施

昨年に引き続き、富山県立大学と協働し、協力企業から提示された課題を解決することを目指す「課題解決（文理融合）型インターンシップ」を実施した。

- ①日本海ガス株式会社：課題「大口顧客へのエネルギー利用状況診断に基づく省エネ提案の作成」
- ②株式会社インテック：課題「オープンデータを活用して、県・市などの地域課題を解決する I」
- ③3 大学共催の「新たなインターンシップ成果発表会」で研修結果の報告

(3) 「とやま塾 in TOGA」への参加

県内の学生を対象に、地域課題について学び、その課題をともに考え、解決策を探究する 2 泊 3 日の合宿型セミナー「とやま塾 in TOGA」（9 月 12 日～14 日）を南砺市利賀村にて開催。

(4) シンポジウム（H30 年 2 月 10 日（土））の共催

13：00～17：00 富山大学黒田講堂 入場無料 参加者数：494 名

(5) COC+事業の中間評価(文部科学省)⇒A 評価

2. 本学独自の「地(知)の拠点大学(COC)」の取組み事業内容

(1) 能力特性評価テストのデータ収集と分析データの効果的な活用法の検討

(2) 地域志向科目の充実・強化

(3) 地元就職率及び定着率向上のための支援事業

①第 3 回保護者向け一般企業対象就職説明会及び懇談会の実施

平成 30(2018)年 1 月 27 日（土）、本学東黒牧キャンパスにおいて、一般企業就職希望 3 年生の保護者を対象とした説明会と懇談会を開催。

参加者：保護者 28 名。

記念講演：北日本新聞社経済部長 浜浦徹氏「新聞で取り上げられたキラリと光る企業」

②第 3 回保護者アンケート調査の実施と集計

③平成 29 年度採用企業向け採用活動に関するアンケート調査の実施と集計

④平成 29 年度「富山国際大学・企業・事業所・大学講演会」の開催

11 月 22 日（水）、富山コーセル株式会社代表取締役社長・谷川正人氏「働き方改革について」

場所：富山電気ビルディング、参加者 150 名。講演会終了後、「情報交換会」の開催。

参加者に対するアンケート調査の実施：参加者数(用紙配付数) 96 名（講演会 90 名・情報交換会 73 名）回答者数：47 名(回収率 49.0%)

⑤留学生就職説明会開催

留学生及び海外展開企業への就職を希望する日本人学生を対象とした説明会を 2017 年 7 月 5 日（水）に開催、29 名が参加。

(4) 学生の地域貢献研究発表

富山県高等学校商業研究クラブ研究発表会：富山国際大学現代社会学部長尾ゼミ、子ども育成学部村上ゼミ

(5) 地域連携活動

①富山市との連携

- ・包括連携協議会：平成29年9月1日、包括連携協定に基づく定例会議の開催。
- ・富山市中心市街地活性化推進課より「学生行動調査」の協力依頼
- ・市民講座開催時⇒乳幼児のケア・サービスの提案

②南砺市との連携

- ・包括連携協議会：年3回開催
- ・福野まちづくり協議会への参加

③高岡市との連携

(6) 学生の地域参加活動

①学部共通

(夢の架け橋事業)

平成29年度「夢への架け橋助成事業」に8件の応募(子ども育成学部5件、現代社会学部3件)(青年議会への参画)

②現代社会学部

1) 学生まちづくりコンペティション in 2017 に2企画が採択 (8/28)

- ・長尾ゼミ「富山ラーメンアイス」事業(富山県高等学校商業研究クラブ主催の研究発表)
- ・佐藤綾子ゼミ「そうがわっふ」

2) 東黒牧キャンパスの森林づくり活動

現代社会学部の教職員と学生(環境サークル)が企業と協働でキャンパスの森林整備活動を実施。

3) 国土交通省北陸整備局富山河川国土事務所との連携事業

道の駅「ウェーブパークなめりかわ」と道の駅「砺波」の活性化策について

4) とやま環境フェアへの出展と協力

平成29年10月20日に開催された平成29年度とやま環境フェア(主催：とやま環境財団、富山県)に、フェア会場での学生ボランティアとして2日間で12名が参加。

5) 地域課題を取り上げた卒業論文(平成29年度卒業生)⇒107件中48件(44.9%)

(7) 外部評価委員会の開催

(8) 事業推進ニュースの発行

3. 成果と今後の課題

- ・学生の地域活動への取組み件数の増加を図るとともに、取組みテーマの広がりも拡大することができ、学生の地域参加活動への意欲と行動力を高めることができた。
- ・今後は、副専攻プログラムの修了生の魅力的付加価値を高める検討を行い、グローバル人材認定証、及び地域創生推進士認定証の取得者数の拡大を図っていきたい。

16. アクションプラン（2014-2017）

2014 年度からスタートしたアクションプランは大学の 5 つの行動指針①～⑤を以下に掲げ実施した。

- ①学生の成長を保証する教育の実践
- ②国際性に富み、地域発展に貢献できる人材の育成と知の創造・活用
- ③活気が溢れ、個性を伸ばせる学生生活への支援やキャリア支援
- ④ブランディングと情報発信の強化と多様な学生の受け入れの推進
- ⑤教育力・研究力の強化と健全な大学運営

これらアクションプランに対応する具体的な行動計画を立案し、4 年間での実施結果を 2017 年度に取りまとめた。現代社会学部では、1～5 点で各年度で評価し、一部点数の低い未達成項目については次年度の強化項目としてかけ推進してきた。各項目別に最終評価を次ページに掲載する。

各項目において概ね達成できたが、達成点数が低かった項目は、今後の課題として以下に挙げる。

指針①の学生の教育支援システムでは、e-ポートフォリオに関する実施状況である。ネット環境とセキュリティに課題があるため、実施に向けた今後の課題となった。

指針②の国際性に関しては、e-learning による TOEIC の得点の向上、外国人留学生の日本語検定試験の合格率において達成できなかった。地域貢献に関しては、地域企業等の協定に伴う実践が不十分であった。

附属高校との連携についても必ずしも十分といえず、信頼関係を強化して 2018 年に発足する英語国際キャリア専攻との連携を深めたい。

指針⑤教育力と研究力の強化に関しては、FD 研修を実施しながらアンケート調査の結果につなげてきたが、一方では教員の研究経費につながる、文部科学省の科学研究費をはじめとした競争的研究助成の採択状況が低下している。研究環境を向上させるための分析を急ぎたい。

平成 27 年度現代社会学部将来構想で決定したスケジュールと実施結果

表 平成 28 年度、29 年度実施結果（最終年）

区分	分野	平成 28 年度	実施状況	平成 29 年度	実施状況
学部	教育実践	「国際大学」とのネットワークづくり開始 ⇒ 長崎国際大学交渉中	△	継続 沖縄国際大学との協定 長崎国際大学取止め	△
	グローバル人材の育成	副専攻の開設準備	○	今年度より英語国際キャリア専攻の立ち上げ準備（H30 年度開設）	○
	就職支援	PAP 体制の強化 卒業生情報の収集	△ ×	公務員試験受験年 卒業生情報の活用	○ ○
	教員免許の取得	導入可能性検討、両学部によるワーキンググループ検討・年内結論	○	可能であれば申請準備	×
	学生生活・活動支援	シャトルバスの充実 強化クラブのあり方の検討	△	シャトルバスの充実 強化クラブのあり方の検討 学生支援チームの立ち上げ	○ △ ○
	地域貢献	情報発信の強化 COC との連携	△	情報発信の強化 COC との連携	○ ○
	学期制などの変更	4 学期制導入検討	×	学則等変更手続き	×
	情報発信	H P 等での発信増加	○	学生・教員の活動情報発信	○
	教育実践	地域づくり実習による学生基礎力の強化	○	地域づくり実習による学生基礎力の強化	○
観光専攻	教育実践	長期留学生の促進と帰国者の就職先の検討 卒業論文におけるフィールドワークの義務化 毎年調査可能な観光専攻のフィールド地の検討	△ ○ △	長期留学生の促進と帰国者の就職先の検討 卒業論文におけるフィールドワークの義務化 毎年調査可能な観光専攻のフィールド地の検討	△ ○ △
	教育実践	ゼミ・サークル規模での環境ビジネス開発の調査と事業計画	×	学生主体による環境ビジネスの実践開始	△
	企業・海外連携	県内の海外拠点企業発掘と準備 ASEAN 拠点の発掘と準備	○	ASEAN への海外インターンシップ開始	△
環境デザイン専攻	出口強化	環境ビジネス企業の発掘とリストアップおよびニーズ調査	△	環境分野の就職拡大	○
	教育実践・教育改革	・「経営情報概論」テキスト改訂 ・「経営情報実習」プログラム改良案検討（可能なら 28 年度実施） ・「情報関連」専攻科目教育内容検討（情報担当教員の新規採用） ・ゼミ研究成果発表大会の開催 ・ゆるキャラ検討・作成	○ × △ △ ×	・「経営情報概論」テキスト改訂 ・「経営情報実習」プログラム内容を改善し実施 ・「情報関連」専攻科目、新教育内容実施 ゼミ研究成果発表大会の開催 ゆるキャラ作成・商品化	○ △ × ○ ×
	副専攻	・「国際コミュニケーション」副専攻 ・グローバル人材育成へ統合 ・地域創生人材育成プログラム	×	グローバル人材育成プログラム 地域創生人材育成プログラムの創設スタート	○

○：実施済み △：検討中 × 全く検討せず

現代社会学部 アクションプラン 進捗状況 (2018 年 3 月 31 日)

(1/3)

担当部局	具体的行動計画	2014	中間評価(9月末)	2015	中間評価(2015年3月末)	達成度	2015年度達成度(2016年5月評価)	点数	2016年度計画	2016実施結果	点数	2017年度結果	点数
学務部(学務委員会)及び各教員	1-(5)-①シラバスには、その授業科目の到達目標や授業計画とともに、学位授与方針や社会人基礎力への寄与や他の授業との関連性、授業外学習の指示等も明確に記述し、授業の行程表として機能するよう内容を充実する。シラバスの記述内容の妥当性について、学務委員会でチェックする。	・現在のシラバスの記述を充実(各教員)と妥当性のチェックの実施。シラバスの充実方法を検討。・シラバスの記述内容チェックに学部教育の総括責任者として学部長が主管する	学修成果の評価等に活用できるよう、DP等の見直しを12月までに行う必要がある。	シラバスの充実を実施	2014年度に現時点で求められているシラバスが完成。	達成	○達成	5	シラバスの更なる充実に向けて検討。	シラバスの充実やチェックについては継続的に行われた。	5	学務委員によるチェックを実施しているが、DPとの整合性については不十分	4
学務部(学務委員会)及び各教員	1-(5)-②授業開始時にはシラバスを配布し、その内容を説明して、学生の計画的学習を促すとともに、シラバスに沿った進捗を確認しながら授業を進め、到達目標の達成度に応じた成績評価を行う。	各教員に実施の徹底を促し、実施状況を検証。	授業アンケート内容の改善が必要。		学務委員長が教授会で実施の徹底を促したように、ひと声かける取り組みを継続したい。簡単な方法で実施状況の確認をすればよい。	原則達成。しかし、確認が困難。	○着実に前進。教員には学部学務委員会から徹底を指示している。、	3	成績と到達目標の達成の一致性について検証方法を検討することが必要。	webシラバスの導入が決定したが実働には至っていないため成績とのリンクもまだ十分とは言えない。	3	シラバスはwebにより実施しているが、評価については確認が不十分	3
学部及び学務部	1-(6)-①全ての授業科目で、対話型双方向授業、演習反復型授業、グループ学習、地域フィールドワーク、授業外学習指導や自主学習をはじめ、アクティブラーニング等の能動的学習を促進する授業方法を採用入れる。また、そのための学習環境の整備を行う。	継続実施し、実施状況を検証する	授業方法について個人差が顕著。授業評価アンケート結果をもとに低評価教員へ改善を呼びかける。		授業方法について個人差が顕著。従前の授業方法を変えない、また変えられない教員が目立つ。地道に改善を促進する。	着実に前進(＝達成、以下同様)。ただし、何をもって達成とするかは困難。	○着実に前進。一部教室環境の整備により多様な授業方法を取り入れやすくなった。	4	更なる授業方法の充実を図る。	1号館においてアクティブラーニングのためのタブレット型の椅子を整備した。	4	各種特色のある授業	4
現代社会学部	1-(7)-①地域づくり実習や専攻実習の内容を充実させる。	地域課題解決力強化へ向けた充実策を策定・実施	地域づくり実習の組織的実施が緊急の課題。しかし、実施は困難。	実施	各実習の内容は年々充実してきているが、長期インターンシップ型実習の意味と進め方を再考する必要がある。	着実に前進。	○着実に前進。	4	地域づくり実習は地域との連携を強化。	概ね実施できた報告書も作成した。	4	実施してした	5
学部・学務部	1-(8)-②「e-ポートフォリオシステム」等の教育支援情報システムへの学生・教職員の入力を促進し、各学生の学習・活動履歴や指導記録などをととも、学生の効果的な教育・指導に役立てる。	入力促進マニュアルを作成、学生・教職員への入力指導を徹底する。先に1-(8)-③を実施する。(子ども)			現在のシステムの利用について再考が必要。	未達成。	×ほとんど未達成(一部の教員で部分的に活用している)	2	セキュリティに脆弱性があるので、システムの改良や入力ルールを検討。	十分な整備が出来ていない。	2	検討中	2
学部・学務部	1-(9)-①アカデミックアドバイザー制度も活用し、教養演習、専門演習(卒業研究)等で、各学生の学習状況を把握し、きめの細かい個別指導を徹底する。	学生カルテの入力を義務化し、個別指導状況を検証			学務委員会、AA会議、専攻会議で検討し、できることから実施していく。	着実に前進。	○着実に前進。授業以外での学習時間について調査を実施した。	4	継続実施。	教員の多忙による問題はありますが、時間を調整して学生とのきめ細やかな指導に努めることが出来た。	3	実施している	4
学部・学務部	1-(9)-②基礎学力不足の学生へのリメディアル教育等を実施し、学習支援体制やピアサポート体制を整備する。	具体的な方策および実施プロセスを検討するとともに、できることから実施。			学務委員会、AA会議、専攻会議で検討し、できることから実施していく。	未達成。	△一部達成。しかし、教養演習での学習支援が中心で体系的に行っていない。	2	学習環境の整備、体系的な支援体制を総合的に検討する必要がある。	留学生のTAを活用や学習支援室の活用を推進した。	3	e-learning形式のSPI導入を始めた	3
学部	1-(9)-③新入生への導入教育をはじめ、初年次教育を強化する。	具体的な方策および実施プロセスを検討するとともに、できることから実施。	入学前教育は定着。初年次教育の在り方、教養教育の在り方を検討するために、年内に学部長主導の検討委員会を設ける。		入学前教育は定着。初年次教育・教養教育の在り方について検討委員会を立ち上げ、検討中。	着実に前進	○着実に前進。合同教養演習などを活用した初年次教育として、自校教育、大学生生活についてツールブックにより指導した。	4	2015年度より更なる充実と強化を図る。	自校教育の時間を学長講話に加え設立にかかわったゲストを呼び建学の精神を学んだ	4	自校教育として外部講師、学長などから講義を開講した	4
学部	1-(9)-④外国語、情報、会計関係科目等で、習熟度別指導を実施して、一人ひとりの能力・適性に応じた効果的な教育を行う。	これまでの取り組みを見直し、改善策を作成。できることから実施。	習熟度別指導を行っている科目の教員との話し合いを年内に行う。		学務委員会、AA会議、専攻会議で検討し、できることから実施していく。	既に英語で実施	△一部達成。英語教育で実施。	2	必要があれば情報や会計関連分野でも導入検討。	語学ではTOEICの通信教育、情報関連でB検定などを推進した。	3	費用対効果、学生の希望状況を踏まえ今後検討	3
学部・学務部	1-(10)-②学生の自主的学習環境(ラーニングコモンズ等)を整備し、学生同士の学び合いを含めた、自主学習支援体制を強化する。	・2013年度整備した学習サロンの周知	一部の学生は日常的に利用している。メディアセンターのような利用は困難。		学務委員会、AA会議、専攻会議で検討し、できることから実施していく。	未達成	×未達成。学習サロンは設けたが、経済研究会以外の自主学習がなされていない。	2	学習環境の整備の充実。	空き研究室を活用し、一部利用し始めている。	3	空き教室を準備中	2
現代社会学部・国際交流センター	2-(1)-①毎年10人(学生の1割)の「インターナショナル・プログラム」による中・長期留学者を実現する。そのための留学奨励金制度を新設する。	・高校向け留学支援プログラム紹介チラシの作成 ・留学先情報冊子作成(勉強・生活・費用)・派遣前オリエンテーションの充実 ・2014年度目標は6名		・留学先の開拓(特に英語圏)		達成	×未達成。奨学金制度は設けられたが、中・長期留学者は数名に留まっている。	2	目標人数を達成するよう指導に努める。	長期2名短期8名が計10名が参加した。	4	7名参加している。	3
学部・国際交流センター	2-(1)-②現代社会学部の日本人学生全員が在学中に海外体験(インターナショナル・プログラム、異文化交流、海外ボランティア、海外インターンシップ、海外研修等)を行うようにする。子ども育成学部については、1割程度の学生の海外体験を実現する。	・プログラム一覧作成と開示(実施時期、内容、奨学金の有無など)・危機管理体制の強化に向けた検討・協定校または業者委託の検討・参加できない学生(貧しい学生、社会性のない学生、暴走学生、部活学生等)への対応の検討		・魅力あるプログラムづくり・積立金制度・引率の費用予算化		未達成	×未達成。現在日本人学生の2割以下という状況。	2	海外体験の参加者を全体の30～40%目標とする。	昨年比131%の参加者増となったが、目標にはまだ達しない	2	56名の体験者	2
学部・学務部	2-(2)-①習熟度別クラス編成などにより、全学生の英語能力の底上げを図るとともに、能力の高い学生の更なる高度化を図る。	英語科目で2013年度から実施。今後、実施内容の高度化などを行う。	10月中にバブリー講師と英語教員の現状と課題について話し合いを行い、英語教員を2名体制とするかの検討を行う。		2015年度から実施するイングリッシュ・カフェによる楽しみながら英語を学ぶ雰囲気醸成、特講(英語)による英語能力のさらなる向上を図る。	達成	○達成。英語教育で実施	3	副専攻(グローバル人材育成)プログラム開設に向け、内容を検討する。	開設に向け検討し、2017年度より解説した準備した	4	副専攻プログラム設置、14名申請中	4
現代社会学部	2-(2)-③英語に加えて、中国語・韓国語・ロシア語のいずれかを第2外国語として必修とし、その能力の向上を図る。	既に実施。今後、学生の能力向上の取り組みを行う。		実施済。	達成	○達成	5	更にフランス語を加えて実施。	継続している。	5	toeicの強化に努	5	
学部	2-(2)-④現代社会学部の「国際交流科目」や子ども育成学部の教養科目などで、国際的視野を広め、異文化理解を深める授業科目と内容の充実を図る。	既に実施。今後、授業内容の高度化・改善を行う。		実施済。	着実に前進	○着実に前進。	4	2017年度開講授業なども含めて充実を図る	2016年度に教員が配属され準備を進めたが更なる科目の設置準備が必要。	4	英語国際キャリア専攻の設置準備を行った	4	
現代社会学部・国際交流センター	2-(3)-①海外の提携校を3年後に20校程度(現在は15校)に増やす。	・1校以上と提携する。			着実に前進	△着実に前進。2015年度末現在、17校。	3	提携校を2校は進行中、他に2校検討中。	海外協定校は新たに20校協定した。	5	20校締結した	5	
現代社会学部・国際交流センター	2-(3)-②海外及び国内の提携校との学生交流や教員交流を促進する。	・1ヵ所以上の提携校との交流開始・ハルビン理工大学、大連大学提携予定		・ハワイ等英語圏検討		△着実に前進。中国南通大学の学生によるサマーキャンプを実施した。	3	サマーキャンプは7月19日～26日実施予定。	サマースクールをはじめ10件の交流事業が行われた。	5	8月上旬に実施し	4	

現代社会学部 アクションプラン 進捗状況（2018 年 3 月 31 日） その 1

(2/3)

担当部局	具体的行動計画	2014	中間評価(9月末)	2015	中間評価(2015年3月末)	達成度	2015年度達成度(2016年5月評価)	点数	2016年度計画	2016実施結果	点数	2017年度結果	点数
現代社会学部・国際交流センター	2-(4)-②外国人留学生は全員、卒業までに日本語能力検定1級の取得できるよう支援し、8割の達成を目指す。	・N1合格必須の雰囲気づくり(N1取得者のみ就職斡旋等)・前年度以上の合格者を旨ずす。		・合格者に受験料返還(予算化)・N2取得者対象N1講座開設(予算化)			△着実に前進しているが、8割は未達成。	2	留学生と日本語教師との連携を強化。	N1 5名(10%)、 N2 23名(47%)	2	N1、N2共に50%	2
学部・学務部	2-(6)-①「地域づくり実習」、「地域社会参加活動」、「とやま地域学」をはじめ、各学部の地域関連科目や実習・演習・特別講義等において、富山県の各種施設・団体や自然環境等を活用した地域フィールドワークや地域理解活動を積極的に実施する。	これまでの取り組みを強化する。	現在の取り組みの改善を行う。		現在の取り組みの改善を行いながら、継続実施する。	着実に前進	○着実に前進。県内の企業、自然環境施設などでの研修を深めた。	4	地域づくり実習は大学周辺を中心に、専攻実習は地域、企業と連携して実施予定。	地域づくり実習は大学周辺を中心に、専攻実習は地域、企業と連携して実施した。報告書作成	4	地域づくり実習や専攻実習で実施した	4
現代社会学部各専攻	2-(6)-②現代社会学部の各専攻の実習科目は、地域の企業・団体等とも連携して、長期インターンシップやPBL型学習などを実施する。	・観光専攻または環境デザイン専攻で実施する。	GP終了にともない、2015年度からの資金源が枯渇する。2015年度は環境省の補助プロジェクトを活用する予定。		各実習の内容は年々充実してきているが、長期インターンシップ型実習の意味と進め方を再考する必要がある。	着実に前進	○着実に前進。課題解決型の授業は実施しているが、中長期インターンシップは未達成。	3	中長期インターンシップの受け入れ先などを含め検討が必要。	1件県立大学と連携しインテックで実施した。	4	インテック及び日本海ガスで実施した	4
各学部及び各教員	2-(6)-④卒業研究(専門演習)では、地域課題解決型テーマや地域での調査活動等を採り入れた研究を積極的に実施する。	既に地域課題をテーマとした卒業研究が多くなされている。今後は、地域へどう発信するかを検討。	優秀な卒論の発表会を2015年度から公開で実施することを検討する。		2015年度は卒論指導の徹底と優秀卒論発表会を実施する。	着実に前進	○着実に前進	3	各専攻ごとに地域課題のテーマを積極的に推進(2015年度より増す)。	観光、環境デザインは比較的多かったが、経営情報は今後増加することが必要。全体の50%達成。	4	地域課題型テーマは50%弱であった	3
学部・地域交流センター	2-(7)-②現代社会学の各専攻や子ども育成学部の各専門分野の特色や教育・研究成果等をアピールする講座を順次実施し、本学の活動について地域の理解を得るようにする。	・エクステンション・カレッジ及びサテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ講座の実施 ・東黒牧キャンパスにおける講座のサテライト・オフィスへの配信			2014年度は環境デザイン専攻主催のシンポジウムを実施。2015年度は観光専攻が公開講座を実施。	着実に前進	○着実に前進。サテライト講座や助成事業による公開講座で実施。	5	継続して計画・実施。	継続して計画・実施。教員の多忙によりやや減少傾向 新たに南砺市との連携が始まった。	4	サテライト講座を利用して実施した	5
学部・地域交流センター	2-(7)-③「地域社会出講プログラム」「高校出講プログラム」の継続・推進。地域と結んだ遠隔授業・講座の実施や連絡網の整備に努める。	・出講プログラムの継続実施 ・情報・通信機材(無線LAN)、プロジェクター、講演会用のマイク・スピーカーの拡充	出講プログラム実施報告書作成の義務化と「自己点検評価報告書」への記載を2015年度から実施。		2015年度から学部自己点検評価報告書に出講プログラムによる活動結果を掲載する。	着実に前進	○着実に前進。出講講座は実施しているが、遠隔授業は未実施。	2	遠隔授業に關してできる範囲で試運転を実施。	今後の整備が必要	2	高校出講授業など協力した	4
(企画本部・学部・地域交流センター	2-(8)-①富山県及び富山県教育委員会、富山市教育委員会など各自治体や関連機関と、連携協定の締結を含む連携強化を図る。	実効性の高い連携を図る。					○着実に前進。連携して事業を実施している。	3	2015年度より件数が増加するよう努力する。	富山県や射水市との連携、滑川市との連携など着実に実施。	4	地域出講授業、高校生などとの連携講座を実施した	3
学長室・地域交流センター・学部	2-(8)-③富山県経営者協会、富山市商工会議所、コラボ産学官富山支部、富山県社会福祉協議会等の会員としての活動の強化をはじめ、県内の企業・団体等との双方向的連携を強化する。	実効性の高い連携を図る。					×未達成	1	教員の研究時間を確保し、連携の可能性を探る。	富山市商工会議所会頭による講義など実施した。招待講義なども増加。	3	南砺市との共同事業など始まりつつある	3
現代社会学部	2-(9)-①学生も参加して、県内の街づくりや県内中小企業の活性化、県内観光の発展や自然環境保全や自然エネルギーの活用などに貢献する事業を推進する。	・教員の地域での調査活動に学生を同行する ・文書学術課の新規事業へ協力する。			従前の活動を推進する。	着実に前進	○着実に前進。各専攻の特色を活かした貢献事業を実施している。	4	継続して実施に努める。	桐谷地区、宇奈月、南砺市小水力発電など貢献事業を実施した。	4	全国植樹祭への参加、地域活性化へのコンペに参加した	5
学部・地域交流センター	2-(10)-③子ども育成研究交流センターと現代社会学部の地域研究交流センターの機能を強化し、地域との研究交流を促進する。	・地域課題探究センターを設置し、地域との連携を深める。					×未達成。個々の教員の研究交流は行われているが、地域研究交流センターとしては行われていない。	2	学部の教員の研究を地域交流センターがコーディネートとなって促進できるよう情報提供を充実。	推進中	2	地域交流センターの機能が明確でない	2
現代社会学部	3-(3)-①東黒牧キャンパスの設備・環境整備・・・厚生棟リニューアル、中庭・芝生広場整備、講義室内改善、花と緑の空間づくり、冷暖房設備改修、だべりんぐ環境創出(予算を確保し逐次実施)	学務部と連携して実施。	野外テーブルと椅子の設置、花壇の設置などを実施。		2015年度に学内環境の現状と問題点の点検作業と整備優先度の整理を行い、次年度の予算要求を行う。	着実に前進	○着実に前進している。助成金の範囲で整備が進みつつある。	3	予算の査定を受けた範囲で早急に整備する。	花と緑の空間作りを実施	3	学生や職員の協力により徐々に進んでいる	3
現代社会学部・学務部	3-(3)-③東黒牧キャンパスの環境を活用し、四季を通じたイベント開催など楽しいキャンパスづくりを行う。また、キャンパス周辺の里山整備事業を、外部団体と協力して、学生参加のもとで継続実施する。	学務部と連携して実施。	クリスマスイベントを計画中。		クリスマスイルミネーションを継続する。	着実に前進	○着実に前進しつつあるが、さらなる企画数の増加が必要。	3	通常の行事に加え、11月にハロウィンなど学生と教職員、地域の人などでキャンパス活性化に努める。	クリスマスイベント、ハロウィン、イルミネーション等昨年より学生の参画により賑わいの強化に努めた。	4	イルミネーション、芝桜、森づくりなど徐々に広まっている	4
学部・学生課	3-(4)-①「夢の架け橋」事業を充実し、学生の自主的な取組を奨励する。	継続実施					○着実に前進。現代社会学部申請1件のみであった。	3	学生の主体的活動として地域・国際貢献の補助に申請を呼びかける。	タイ国での貢献活動に参加した。	3	国際貢献、国内研究、学内活性化など多彩な取り組みがあった	4
学部・学生課	3-(4)-②学生のボランティア活動を促進する。子ども育成学部では、学生ボランティア支援体制を整備する。	継続実施					△着実に前進。しかし、活動が募金活動などに限られ不十分。	2	外部からの依頼に対して学友会などに積極的に参加するよう指導する。	18歳選挙権導入の協力ボランティア、防犯ボランティア、森づくりボランティアなど活発に実施できた。	4	2016年度と変わらなかった	3
学部・学生課	3-(4)-③学友会活動や大学祭の活性化を支援する。地元自治会等との連携をはじめ、地域との協力関係も推進する。	継続実施					○着実に前進。	3	学務委員、ゼミ教員の協力を推進する。	学務委員を中心とした活性化は進んでいるが、地元は2017年度実施予定である。	3	天候に恵まれなかったが地域の関係者も来校した	4
学部・学生課	3-(4)-④クラブ活動の活性化への支援と運動クラブ支援の選択と集中を行う。●吹奏楽団・合唱団の活動強化(子ども育成学部)、吹奏学部の指導体制改善 ●トレーニング室整備・充実、部室・サークル室の整備 ●諸活動特待生制度の改善	・子ども育成の専門職を目指す学生等を対象に、特別奨学生入試を拡充する	10月中に吹奏楽団のアクションプラン作成。				×未達成。運動クラブの支援の選択と集中が課題。	2	全国レベルの部の強化、入学者数の確保の観点から積極的な部員勧誘を推進。人数が減少している部は強化資格を外すことも検討。	昨年度より減少。県外大学からの勧誘により本学の取り込みには厳しい面があった。環境の整備が必要か。入学者16名(昨年19名)	3	現状維持であった	3
現代社会学部・学生課	3-(5)-①シャトルバスの運行を継続し、東黒牧キャンパスへの通学の利便性を確保する。富山駅からのシャトルバスの運行も検討する。	継続実施	富山駅からのシャトルバスの運行検討を開始するか？		運行体制の充実を図るため、次年度、外部運転手確保のための予算要求を行う。	着実に前進	○着実に乗客数が増加(年間利用者総数10451名昨年度比5010名増加)。	3	無料バス運行は利便性を担保しているが今後も持続可能な方策を検討する。	概ね例年並みであるが、配車状況が厳しい面もあった。	3	他の運輸方法について検討するもめどが立たず	3
学部・学生課	3-(6)-①アカデミックアドバイザー制度や教養演習、専門演習(卒業研究)等を活用して、学生の生活指導を強化する。	継続実施			様々な機会に学生の生活指導の徹底を教員に訴える。	着実に前進	○着実に前進。アドバイザー会議を1か月に一度開催し情報共有や対策の検討を実施。	4	継続して実施。	単位不足による退学増など強化が必要	3	概ね達成	4
学部・学務部・教務課	3-(6)-④不応学生支援チーム(学生生活に困難を抱える学生を支援する体制)を整備・強化して、休学や退学を予防する。	他大学等の取り組みの研究および本学にふさわしい取り組みを検討			今年度から、発達障害の学生への教職協働の取り組みを意識的に実施する。	着実に前進	○着実に前進。しかし、教員個人の取り組みに依存しており、組織的な取り組みになっていない。	3	学務部との連携を促進する。	学部内での体制の検討が必要1名納入できず除籍となった学生が再入学・卒業を果たした。	3	支援チームを立ち上げ情報共有した	4
学部・総務課	3-(6)-⑤後援会や同窓会との連携を強化する。	継続実施					○着実に前進。しかし、同窓会の組織強化が課題。	3	引き続き、卒業生データを活用した強化策を検討	データ集積中、利用までに至らない。	3	卒業生の就職状況の調査実施	3

現代社会学部 アクションプラン 進捗状況（2018 年 3 月 31 日）

(3/3)

担当部局	具体的行動計画	2014	中間評価(9月末)	2015	中間評価(2015年3月末)	達成度	2015年度達成度(2016年5月評価)	点数	2016年度計画	2016実施結果	点数	2017年度結果	点数
現代社会学部・国際交流センター	3-(7)-①日本人学生の「インターナショナルプログラム」による中長期の留学を奨励・促進するため、月4万円程度の留学奨励金制度を設置する。	2014年度から制度化					○達成	5	利用者が増加することを推進	利用者数()名	5	7名参加した。2016年に比べ3名減少	3
学部・学務部	3-(8)-②教養演習や専門演習(卒業研究)等を通じて、個別の「なりたい自分」の追求度や進路希望等を把握し、その実現への支援を行う。	子ども育成学部では常時把握と支援を実施済み			従前の取り組みを継続実施。	着実に前進	○着実に前進。	3	学生の情報を4年間ゼミ教員間で確実な共有化	各ゼミで調査し、指導に努めている。	4	データの共有化は不十分である	3
学部・キャリア支援センター	3-(9)-①「キャリアデザイン講座」「キャリア支援講座」等の正課内でのキャリア教育を充実・強化する。	子ども育成学部では各学年に学年進行で正課として開設					○着実に前進。	3	継続して充実に努める	計画を見直しながら遂行した。就職率100%達成	4	継続して充実に努める	3
学部・キャリア支援センター	3-(9)-④職業に関する意識や社会的マナーの醸成、読み・書き等の国語力の強化に努める。	子ども育成学部では、授業と実習指導などを通して実施済			従前の取り組みを継続実施。	着実に前進	○着実に前進。コミュニケーションの基礎やキャリアデザイン講座などで書く力を強化。	4	継続して充実に努める	キャリア教育による検定など導入し合格している	4	継続して充実に努める	3
現代社会学部	3-(10)-①ワード検定・エクセル検定・ビジネス検定3級を全員が取得し、更に上級の検定を取得することを支援する。また、専攻分野に応じた資格取得を支援する。	従前の取り組みの見直しと新たな方向性の検討	10月中に学部長と担当教員との話し合いを実施し、次年度以降のあり方を検討。		今年度中に新たな実施体制の検討を行い、2016年度から実施する。	着実に前進	○着実に前進。	3	ワード、エクセル操作技術が全員マスターする	留学生を除き、ほぼ達成予定	3	一部次年度に再挑戦	3
現代社会学部	3-(11)-①在学中に全学生がインターンシップ(長期インターンシップ型実習を含む)に参加することを促進する。	観光専攻ないし環境デザイン専攻の専攻実習を長期インターンシップ型実習にすることで、学生全員の参加をめざす。	観光専攻の長期インターンシップを検討中。		2015年度の観光実習を長期インターンシップ型実習とする。	着実に前進	○着実に前進。(短期インターンシップ参加者は37名参加)	3	50名程度参加を目指す。	44名参加。海外3名、昨年より増加した。	3	中長期文理融合型日本海ガス、インテックなどで実施した	4
現代社会学部	3-(13)-②公務員就職者を直近の実績平均を上回る成果を挙げる。	PAP受講学生の継続化とサークルづくり に重点置いて取り組む。			PAP(公務員対策講座)受講学生への支援を強化する。	着実に前進	○着実に前進。就職実績を上げることが課題。(警察、消防各1名)受講生19名	3	公務員講座受講者警察間、消防士など合格者増やす。	警察、消防、自衛隊3名に留まった	3	行政職2名、その他4名合格	4
現代社会学部	3-(14)-①有力企業への就職者を直近の実績平均を上回る成果を挙げる。	キャリア支援センターと連携し、きめ細かいキャリア指導を実施。			キャリア支援センターと連携し、教員によるきめ細かいキャリア指導を実施。	着実に前進	○着実に前進。就職率100%	5	就職率100%を目指す。	100%達成	5	就職率100%達成	5
学部・学務部・入試広報課	4-(1)-①「共存・共生」や「時代の潮流」、目指す学習成果、国際化への対応、観光・環境・経営情報、教育・保育・福祉のハイブリッド、少人数教育など本学の教育・研究の特色を明確化し、鮮明にアピールする。	これまでの取り組みを外部へわかりやすく示す「見せ方」に注力する。	オープンキャンパス、入試相談会等で実施済。				△不十分。学部の教育実践と成果を外部に伝えきれていない。	2	理念に合った活動に関してHPなどで常に外部に広報する	建学の精神についてゲストを招いて話を聞いた。新聞などで取り上げられた。	3	新専攻(英語国際キャリア)の設置などをアピールした	5
学部・学務部・入試広報課	4-(1)-②「なりたい自分」を実現した例や地域で活躍する卒業生の姿などを含め、本学の教育実績や就職実績などの成果を積極的にアピールする。	これまでの取り組みを外部へわかりやすく示す「見せ方」に注力する。	オープンキャンパス、入試相談会等で実施済。				○着実に前進。	3	報道、HPを通じて積極的に広報活動に努める	新聞等の掲載数は増え広報活動に努めた	3	HPへの説教区的なアピールを行った	4
学部・入試センター	4-(4)-①年度毎に入学定員を超える学生を確保し、3年後に収容定員を満たすことを目標とする。	セグメント別のきめ細かい戦略と戦術を構築し、継続的に実施。	別紙のビジョンに基づいて、個々の取り組みを改善・強化している。		今年度は、長野からの学生確保に努めるとともに、東京からの学生確保の方法を検討する。	着実に前進	△未達成。入学者数が大幅に減少。しかし、学生の質は確保した。	2	2015年度水準に達するよう、分析を踏まえ、教職員が一丸となって募集活動に参画する。	2015年度までには達していないが、充足率90%まで回復した。	3	30年度入学生127名定員を超えた	5
学部	5-(2)-①環境、観光、経営情報分野の研究(現代社会学部)や教育・保育・福祉分野(子ども育成学部)をはじめ、教員の専門分野に応じた研究活動の活性化を図る。	・科研費への応募を励行する。			教員への声かけを継続化する。	着実に前進	○着実に達成。(科学研究費採択代表者3名、共同研究3名)	3	教員の研究活動が確保できるよう、会議など効果的な運営を検討する。	全体としては時間の確保が難しいが、1名の教員が博士号を取得した。	4	1名博士(社会学)学位を取得した、学会を1件開催	5
学部	5-(2)-④教員の研究時間の保証をはじめ、研究環境の改善を図る。	・仕組み・制度の検討開始	学内の組織や会議の効率化と同時に進めない絵に描いた餅になる。		学内の組織や会議の効率化を進め、研究時間の確保に努める。	未達成	×未達成。会議や学務が多く、教員が研究を行う時間が限られている。改善の取り組みが進んでいない。	2	教員の研究へのモチベーションを上げるため研究のエフォート割合をやや高くすることに努める。	学会の開催企画を推進し、予算化した	3	まだ十分とは言えないが'学位'など目標に研究官への配慮を行う	4
各教員	5-(3)-③各教職員が教育、研究、組織運営(学内業務)、社会貢献の活動について年間活動計画を立て、それに基づく活動を行い、活動成果の年度毎自己評価を実施し、活動改善に役立てる。	2013年度から実施。今後は、自己評価の仕組みの改善を図る。	教員の評価と学部長の評価が一致しないという制度となっている。2014年度内に改善策を明確にする。		実施済。	着実に前進	○達成	5	引き続き取り組む。	引き続き取り組む。1名の博士号取得者が誕生した。	5	実施している	5